

授業科目名 (サブタイトル(副題))	衣生活の知識		
担当者	古田 貴美子、本保 弘子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①衣服素材やインテリア素材に関する知識を身に付け、生活するうえで適切な取り扱いができる。 ②布を使って身の回りの小物を作ることができる。 ③衣生活や住生活をよりよくするために、工夫することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>衣生活だけでなく、住生活に関する内容を含みます。 快適な生活を過ごすためには、ファッションやインテリアに関する知識を身に付けることが有効であり、素材の知識が役に立ちます。衣服について、形、サイズ、着方や洗濯・保管に関する基本的な内容全般を講義します。 また、布を使って簡単に小物作りができるように基本の技術の習得を目指します。手縫いとミシン縫いにより巾着袋、手さげ袋などを製作します。 製作する小物の材料費は自己負担です。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>服飾やインテリアなどに関して、店頭や新聞雑誌、WEB上の様々な造形から、参考になる(好きな)資料を集めてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 生活とファッション(古田) 衣服の素材と管理(古田) 「衣類の収納の工夫」発表会の説明、 ウインドトリートメント(カーテン、シェードなど)(本保) 衣類の収納家具、変化する子ども部屋のインテリアコーディネートスケッチ(本保) 「衣類の収納の工夫」発表会(本保) <p><小物の製作></p> <ol style="list-style-type: none"> 作成計画、布地の扱い方、道具の使用法(古田) 布地の裁断、しるしつけ(古田) 手縫いの技術…お手玉製作(古田) ミシンとアイロンの使用方法…コースター製作(古田) ミシン縫いの技術…巾着袋製作(古田) ミシン縫いの技術…裏つき巾着袋製作(古田) ミシン縫いの技術…手さげ袋製作(古田) ミシン縫いの技術…手さげ袋製作(古田) <p>[成績評価方法]</p> <p>レポート(30%)、作品(50%)、プレゼンテーション(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートと作品の講評を返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>被服担当: 古田 kfuruta@kwjc.kobe-wu.ac.jp 住居担当: 本保 hhonbo@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	衣生活の知識
担当者	古田 貴美子、本保 弘子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【教養1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: レポート、作品</p> <p>【教養2-1】自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 成績評価方法: レポート、プレゼンテーション</p> <p>[テキスト(ISBN)] プリント配布</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『シリーズ(生活科学)衣生活学』 著者名: 佐々井啓編著 出版社: 朝倉書店 (4-254-60597-8)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	イタリア語 I		
担当者	吉富 文		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①発音のルールを理解し、つづりを見て発音できるようになる。 ②基本的な文法事項を理解し、会話で応用させることができる。 ③自分の身の回りについてイタリア語で表現できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>この授業では、旅先やイタリア人スタッフのいるレストランなどでのちょっとしたコミュニケーションをイタリア語でできるようになることを目指して、イタリア語の初歩を学習します。 挨拶やアルファベットの発音から始め、基本的な文法事項を学習し、得た文法知識を応用させて、簡単な会話へと発展させていきます。 英語が苦手な人も大丈夫。みんなゼロからのスタートです。</p> <p>授業では恥ずかしがらず積極的にイタリア語を口にするよう心がけましょう。間違っても大丈夫です。実際に口にすることで耳や口がイタリア語に慣れていきます。 分からないことはその都度質問をして、解消するように努めてください。どんな質問でも大歓迎です。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した内容をふり返り、本当に理解できているか確認してください。 ・例文や練習問題に出てきた単語や表現の意味を単語帳にまとめてください。 ・課題の練習問題は、答えを書くだけでなく、イタリア語の問題文を日本語に訳すこともしてください。 ・各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。 <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イタリアについて 2. 挨拶とアルファベットの発音 3. 名詞と冠詞 4. 文の種類と語順、動詞essere(文法) 5. 文の種類と語順、動詞essere(口頭練習) 6. 形容詞 7. 指示する形容詞・代名詞 8. 動詞avere、0~20の数 9. -are動詞規則活用(文法) 10. -are動詞規則活用(口頭練習) 11. -are動詞不規則活用(文法) 12. -are動詞不規則活用(口頭練習) 13. まとめ・名詞、冠詞、形容詞の語尾変化、動詞の活用についての解説 <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認テスト(60%)、授業態度(40%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>yoshitomi@suma.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	イタリア語 I
担当者	吉富 文
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 理解度確認テスト(60%)、授業態度(40%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 『Italiano Italianoーイタリア語はじめの一步ー』 著者名: マッテオ・カスターニャ、吉富 文著 出版社: 朝日出版社 (978-4-255-55314-6)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	イタリア語Ⅱ		
担当者	吉富 文		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①発音のルールを理解し、つづりを見て発音できるようになる。 ②基本的な文法事項を理解し、会話で応用させることができる。 ③自分の身の回りについてイタリア語で表現できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>前期の学習でイタリア語の音や文法に慣れてきたことと思います。 後期は前期に引き続き、文法事項を学習しながら会話によるコミュニケーションへとつなげていきます。</p> <p>授業では恥ずかしがらず積極的にイタリア語を口にするよう心がけましょう。間違っても大丈夫です。実際に口にする ことで耳や口がイタリア語に慣れていきます。 分からないことはその都度質問をして、解消するように努めてください。どんな質問でも大歓迎です。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した内容をふり返り、本当に理解できているか確認してください。 ・例文や練習問題に出てきた単語や表現の意味を単語帳にまとめてください。 ・課題の練習問題は、答えを書くだけでなく、イタリア語の問題文を日本語に訳すこともしてください。 ・各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。 <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期のおさらい 2. -ere動詞規則活用(文法) 3. -ere動詞規則活用(口頭練習) 4. -ere動詞不規則活用(文法) 5. -ere動詞不規則活用(口頭練習) 6. -ire動詞規則活用(文法) 7. -ire動詞規則活用(口頭練習) 8. -ire動詞不規則活用(文法) 9. -ire動詞不規則活用(口頭練習) 10. 名詞・定冠詞・形容詞の複数形 11. 時刻の表し方・20～100までの数 12. 補助動詞 13. まとめと名詞・冠詞・形容詞の複数形、-ere動詞・-ire動詞、補助動詞の活用について解説 <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認テスト(60%)、授業態度(40%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>yoshitomi@suma.wu-kobe.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	イタリア語Ⅱ
担当者	吉富 文
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 試験(60%)、受講態度(40%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 『Italiano Italianoーイタリア語はじめの一步ー』 著者名: マッテオ・カスターニャ、吉富 文著 出版社: 朝日出版社 (978-4-255-55314-6)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	異文化コミュニケーション		
担当者	桂山 康司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①学問の最先端を彩る用語を理解することを通じて、能動的研究姿勢を身に付けることができる。 ②言葉のもつ、多様でニュアンス豊かな表現のあり方を感じ、言語表現に対する感性を鍛錬することができる。 ③相手の気持ちや内面を正しく理解できるようになる。 ④異文化理解を通じて、人間理解を深めることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>～文化、コミュニケーション、間主観性、異文化間能力、学際性～ まず、'culture' という語がラテン語から英語に移入され、その後「文化」という重要な語義を発達させることになる経緯を辿り、'culture' という語の語義変化の歴史を確認する。さらに、「コミュニケーション」、「間主観性」、「異文化間能力」、「学際性」といった関連する学術用語成立の背景を知ったうえで、異文化コミュニケーションの、外国語教育や教養教育、さらには学問体系全体において占める意義について詳述し、異文化コミュニケーションの重要性についての理解を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.導入。関連する基本的諸概念(文化、コミュニケーション、間主観性、異文化間能力、学際性)の相互関連について、簡単な見取り図を提示する。 2.文化('culture')とは何か(1)語源 3.文化('culture')とは何か(2)英語への移入 4.文化('culture')とは何か(3)語義変化 5.文化('culture')とは何か(4)用語の確立 6.コミュニケーションについて 7.間主観性(intersubjectivity)について 8.異文化間能力(intercultural competence)について 9.学際性(interdisciplinarity)について 10.外国語教育と異文化コミュニケーション 11.教養教育における異文化コミュニケーションの位置 12.哲学・知識・学問 13.理解度確認テスト並びにその解説を行います。 <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認小レポート試験(40%)、期末レポート試験(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポート回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>k-katsurayama@suma.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	異文化コミュニケーション
担当者	桂山 康司
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養1-1】自らの専門領域を越え、社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 理解度確認レポート、小レポート、授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] 『イギリス文化を学ぶ人のために』 著者名: 小泉博一他 編 出版社: 世界思想社 (978-4790710721)</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『完訳 キーワード辞典』 著者名: レイモンド・ウィリアムズ 出版社: 平凡社ライブラリー (978-4582767384)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	インターンシップ		
担当者	福井 愛美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>① 企業等での実習・研修体験を通して、社会性や価値観を養い、自分なりの「働くこと」に対する考えを持つことができるようになる。</p> <p>② 授業で得た知識を社会で生かすことができる。</p> <p>③ 実体験によって、主体的な職業選択能力を高めることができるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>企業担当者が、企業とのかかわりや役割など、その実践内容を直接指導します。</p> <p>本格的な就職活動を始める前に、企業で一定期間の就業体験を行い、企業理解を深めます。仕事を通じて自分自身の適性や適職を発見し、今後のライフプランやキャリアプランを形成する上での基礎学習とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位認定するには、企業での実習・学内での事前学習・事後学習が必要です。 ・希望学生は初回のガイダンスに必ず出席してください。その後は、各自、参加申告書に基づき、個々に活動を行います。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加するインターンシップ・プログラムの趣旨を理解し、どのような人が関わっているかに興味を持つようにしてください。 ・参加する企業の下調べを充分に行ってください。 ・日頃から地域の行事や体験学習などに関心を持つようにしてください。 <p>[授業計画]</p> <p>実施団体や企業により異なりますが、実施期間は一社につき5日間以上とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップ制度説明会及びガイダンス 2. インターンシップ企業説明会 3. 企業研究とエントリーシート作成一応募 4. 第1回 事前学習会(協会主催の場合は別日程) <ul style="list-style-type: none"> ・企業研究と心得について ・協会主催の場合(中小企業経営者による講演、先輩学生によるインターンシップ体験談発表、安全教育などを実施) 5. 第2回 事前学習会 <ul style="list-style-type: none"> マナー研修—実習先での心得や注意事項、挨拶状・礼状の書き方、電話のかけ方など 6. インターンシップ実施 7. 報告書作成(就業体験の日数分) 8. 事後学習会1、(協会主催の研修会は別日程) <ul style="list-style-type: none"> ・発表用パワーポイント作成について 9. 事後学習会2、 <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントによる就業体験報告 ・振り返り <p>[成績評価方法]</p> <p>就業先からの実施報告書及び評価票(50%)と、最終報告のプレゼンテーション(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>提出物は後日確認して返却します。</p> <p>プレゼンテーション発表は、その場で講評します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(福井)afukui@kwjc.kobe-wu.ac.jp キャリアサポートセンター shushoku-jc@yg.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	インターンシップ
担当者	福井 愛美
<p>【この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)】</p> <p>【教養3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: インターンシップ先の報告書とプレゼンテーションで評価します。</p> <p>【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: インターンシップ先の報告書とプレゼンテーションで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 特に定めません。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『インターンシップ』 著者名: 上田晶美監修 出版社: 日経VIDEO (DVD)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	インターンシップ		
担当者	大串 美沙		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①企業等での実習・研修体験を通して、社会性や価値観を養い、自分なりの「働くこと」に対する考えを持つことができるようになる。</p> <p>②授業で得た知識を社会で生かせることができる。</p> <p>③実体験によって、主体的な職業選択能力を高めることができるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>企業担当者が、企業とのかかわりや役割など、その実践内容を直接指導します。</p> <p>本格的な就職活動を始める前に、企業で一定期間の就業体験を行い、企業理解を深めます。仕事を通じて自分自身の適性や適職を発見し、今後のライフプランやキャリアプランを形成する上での基礎学習とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位認定するには、企業での実習・事前学習・事後学習・レポート作成などを含めて所定の学修が必要です。 ・希望学生は初回のガイダンスに必ず出席してください。その後は、各自、参加申告書に基づき、個々に活動を行います。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加するインターンシップ・プログラムの趣旨を理解し、どのような人が関わっているかに興味を持つようにしてください。 ・参加する企業の下調べを充分に行ってください。 ・日頃から地域の行事や体験学習などに関心を持つようにしてください。 <p>[授業計画]</p> <p>実施団体や企業により異なりますが、実施期間は1社につき5日間以上とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップ制度説明会及びガイダンス 2. インターンシップ企業説明会 3. 企業研究とエントリーシート作成—応募 4. 第1回 事前学習会(協会主催の場合は別日程) <ul style="list-style-type: none"> ・企業研究と心得、実習計画の作成 ・協会主催の場合(中小企業経営者による講演、先輩学生によるインターンシップ体験談発表、安全教育などを実施) 5. 第2回 事前学習会 <ul style="list-style-type: none"> マナー研修—実習先での心得や注意事項、挨拶状・礼状の書き方、電話のかけ方など 6. インターンシップ実施 7. 報告書作成(就業体験の日数分) 8. 事後学習会1、(協会主催の研修会は別日程) <ul style="list-style-type: none"> ・発表用パワーポイント作成について 9. 事後学習会2、 <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントによる就業体験報告とレポート作成 ・振り返り <p>[成績評価方法]</p> <p>就業先からの実施報告書及び評価票(50%)と、終業後に本人が作成するレポート及びプレゼンテーション(50%)により評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>提出物は後日添削をして返却します。</p> <p>プレゼンテーション発表は、終了後に講評します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(大串)moogushi@kwjc.kobe-wu.ac.jp キャリアサポートセンター shushoku-jc@yg.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	インターンシップ
担当者	大串 美沙
<p>【この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)】 【教養3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: インターンシップ先の報告書とプレゼンテーションで評価します。 【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: インターンシップ先の報告書とプレゼンテーションで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 特に定めません。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『インターンシップ』 著者名: 上田晶美監修 出版社: 日経VIDEO (DVD)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	インターンシップ		
担当者	大西 眞弓		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①企業等での実習・研修体験を通して、社会性や価値観を養い、自分なりの「働くこと」に対する考えを持つことができるようになる。</p> <p>②授業で得た知識を社会で生かせることができる。</p> <p>③実体験によって、主体的な職業選択能力を高めることができるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>・企業担当者が、企業とのかかわりや役割など、その実践内容を直接指導します。 本格的な就職活動を始める前に、企業で一定期間の就業体験を行い、企業理解を深めます。仕事を通じて自分自身の適性や適職を発見し、今後のライフプランやキャリアプランを形成する上での基礎学習とします。</p> <p>・単位認定するには、企業での実習・事前学習・事後学習・レポート作成などを含めて学修が必要です。</p> <p>・希望学生は初回のガイダンスに必ず出席してください。その後は、各自、参加申告書に基づき、個々に活動を行います。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>・参加するインターンシップ・プログラムの趣旨を理解し、どのような人が関わっているかに興味を持つようにしてください。</p> <p>・参加する企業の下調べを十分に行ってください。</p> <p>・日頃から地域の行事や体験学習などに関心を持つようにしてください。</p> <p>[授業計画]</p> <p>実施団体や企業により異なりますが、実施期間は1社につき5日間以上とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップ制度説明会及びガイダンス 2. インターンシップ企業説明会 3. 企業研究とエントリーシート作成—応募 4. 第1回 事前学習会(協会主催の場合は別日程) <ul style="list-style-type: none"> ・企業研究と心得、実習計画の作成 ・協会主催の場合(中小企業経営者による講演、先輩学生によるインターンシップ体験談 発表、安全教育などを実施) 5. 第2回 事前学習会 <ul style="list-style-type: none"> マナー研修—実習先での心得や注意事項、挨拶状・礼状の書き方、電話のかけ方など 6. インターンシップ実施 7. 報告書作成(就業体験の日数分) 8. 事後学習会1、(協会主催の研修会は別日程) <ul style="list-style-type: none"> ・発表用パワーポイント作成について 9. 事後学習会2、 <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントによる就業体験報告とレポート作成 ・振り返り <p>[成績評価方法]</p> <p>就業先からの実施報告書及び評価票(50%)と、本人が作成する報告書(体験レポート・プレゼンテーション)(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>提出物は後日確認して返却します。 プレゼンテーション発表は、その場で講評します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(大西) yohnishi@kwjc.kobe-wu.ac.jp キャリアサポートセンター shushoku-jp@yg.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	インターンシップ
担当者	大西 眞弓
<p>【この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)】</p> <p>【教養3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 就業先からの実施報告書及び評価票、本人が作成する報告書(体験レポート・プレゼンテーション)</p> <p>【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 就業先からの実施報告書及び評価票、本人が作成する報告書(体験レポート・プレゼンテーション)</p> <p>[テキスト(ISBN)] 特に定めません。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『インターンシップ』 著者名: 上田晶美監修 出版社: 日経VIDEO (DVD)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	英会話		
担当者	K. グリーニング		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他	Zoom, Google sites, Library, Textbooks (Market leader and ESL Business)		

[到達目標]

Those who will study this course will become more fluent and confident in using business English, which should increase their career prospects in the near future.

[授業概要]

The course is designed to enable students to use English confidently in professional and social situations, such as presentations, meetings, negotiations, telephoning in English, writing a cover letter + resume, leadership skills, and networking.

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

Study and prepare your materials before class. English communication is required at all times. Complete your assignments in class and practice your presentation. Peer feedback is also necessary for growing your skills. 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時

[授業計画]

- 1./1st Getting to know you: Introduction and course outline
- 2./2nd Careers: Career plan, career move, Telephoning + making contact
- 3./3rd Talk about companies: Describing companies + Presenting your company
- 4./4th Shopping habits: Making sales, negotiating, and reaching an agreement
- 5./5th Great Ideas: Listening skills, Verb & Noun combinations, Meetings, and so forth
- 6./6th Stressful situations: Past simple etc. Participating in Discussions
- 7./7th Corporate entertainment: Socializing, greetings, and small talk.
- 8./8th New businesses and business sectors: Economic terms and numbers.
- 9./9th Marketing mix and marketing campaigns: Exchanging information
- 10./10th How and when to plan: Meetings: Interrupting and clarifying
- 11./11th Leadership: Leadership styles and development.
- 12./12th Negotiating & dealing with conflict, product presentation preparation
- 13./13th Presentation, Cover letter, and Resume writing (Final project)

[成績評価方法]

- 1) Class attendance and participation (15%)
- 2) Peer Review and constructive feedback (20%)
- 3) Unit projects (30%)
- 4) Final project (35%) Plus Presentation

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

Research and writing tasks, mini-tests, presentation

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

nipponclippon@gmail.com

授業科目名 (副題)	英会話
担当者	K. グリーニング
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 1) Class attendance and participation (15%) ・ 2) Peer Review and constructive feedback (20%) ・ 3) Unit projects (30%) ・ 4) Final project (35%) Plus Presentation</p> <p>[テキスト(ISBN)] 教材は学期の初めに検討して決定する 著者名:- 出版社:- (-)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	英会話		
担当者	K. グリーニング		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他	Zoom, Google sites, Library, Textbooks (Market leader and ESL Business)		

[到達目標]

Those who will study this course will become more fluent and confident in using business English, which should increase their career prospects in the near future.

[授業概要]

The course is designed to enable students to use English confidently in professional and social situations, such as presentations, meetings, negotiations, telephoning in English, writing a cover letter + resume, leadership skills, and networking.

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

Study and prepare your materials before class. English communication is required at all times. Complete your assignments in class and practice your presentation. Peer feedback is also necessary for growing your skills. 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1 時

[授業計画]

- 1./1st Getting to know you: Introduction and course outline
- 2./2nd Careers: Career plan, career move, Telephoning + making contact
- 3./3rd Talk about companies: Describing companies + Presenting your company
- 4./4th Shopping habits: Making sales, negotiating, and reaching an agreement
- 5./5th Great Ideas: Listening skills, Verb & Noun combinations, Meetings, and so forth
- 6./6th Stressful situations: Past simple etc. Participating in Discussions
- 7./7th Corporate entertainment: Socializing, greetings, and small talk.
- 8./8th New businesses and business sectors: Economic terms and numbers.
- 9./9th Marketing mix and marketing campaigns: Exchanging information
- 10./10th How and when to plan: Meetings: Interrupting and clarifying
- 11./11th Leadership: Leadership styles and development.
- 12./12th Negotiating & dealing with conflict, product presentation preparation
- 13./13th Presentation, Cover letter, and Resume writing (Final project)

[成績評価方法]

- 1) Class attendance and participation (15%)
- 2) Peer Review and constructive feedback (20%)
- 3) Unit projects (30%)
- 4) Final project (35%) Plus Presentation

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

Research and writing tasks, mini-tests, presentation

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

nipponclippon@gmail.com

授業科目名 (副題)	英会話
担当者	K. グリーニング
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 1) Class attendance and participation (15%) ・ 2) Peer Review and constructive feedback (20%) ・ 3) Unit projects (30%) ・ 4) Final project (35%) Plus Presentation</p> <p>[テキスト(ISBN)] 教材は学期の初めに検討して決定する 著者名:- 出版社:- (-)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	英語講読(a)		
担当者	渡邊 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①英語で書かれた内容を正しく理解するため、語彙力や文法力を補強することができる。 ②英文で展開されている議論を正確に読む力を養うため、情報収集能力や論理的な能力を鍛えることができる。 ③英米文学作品のテーマについて考察を深め、幅広い教養を養うことができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>イギリスの英文学者John SutherlandのLiterature Ideas You Really Need to Knowを読み、その内容について理解するだけでなく、イギリス文学作品において各章の文学概念がどのように作用しているかを探る。また講義形式と演習形式とを組み合わせ、読解力を鍛える。各章に登場する文学作品や社会背景については教員が説明をする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業中で扱う範囲のテキストを毎回予習して授業に臨むこと。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. Chapter 2: Ambiguity(曖昧さ) 3. Chapter 3: Narrative / Story(ナラティブとストーリー) 4. Chapter 5: Gothic(ゴシック) 5. Chapter 6: Culture (文化) 6. Chapter 7: Base / Superstructure(下部構造/上部構造) 7. Chapter 8: The Canon(正典) 8. Chapter 9: Genre (ジャンル) 9. Chapter 10: Allegory(アレゴリー) 10. Chapter 11: Metafiction(メタフィクション) 11. Chapter 12: Structuralism(構造主義) 12. Chapter 15: Sexual Politics (性の政治学) 13. 期末テスト <p>[成績評価方法]</p> <p>平常の授業への取り組み(20%)、口頭発表(30%)、レポート試験(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>小テストについては全体的に指導、期末レポートについては希望者のみ個別で対応する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>r-watanabe@suma.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	英語講読(a)
担当者	渡邊 理恵子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 平常の授業への取り組み、口頭発表、レポートの内容</p> <p>[テキスト(ISBN)] Literature Ideas You Really Need to Know: From “Mimesis” to “Sexual Politics”/文学概念入門:〈ミメシス〉から〈セクシュアル・ポリティクス〉まで 著者名: John Sutherland 著 宮本文 編注 桐山大介 編注 小島尚人 編注 千代田夏夫 編注 ハーン小路恭子 編注 出版社: 松柏社 (978-4-88198-769-8)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	英語講読(b)		
担当者	渡邊 理恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①英語で書かれた内容を正しく理解するため、語彙力や文法力を補強することができる。 ②英文で展開されているストーリーを正確に読む力を養うため、情報収集能力や論理的な能力を鍛えることができる。 ③英米文学作品のテーマについて考察を深め、幅広い教養を養うことができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>イギリスの小説を読む。小説家サマセット・モーム著“Up at the Villa”(「女ごころ」)(1941)を精読し、作品解釈を試みる。実際の場面で使われている英語表現や言葉のニュアンスを理解し、人間の諸問題についての考察を深め、教養を養う。講義形式と演習形式とを組み合わせ、読解力を鍛える。テキストの難解な表現や文化及び社会背景については、教師が説明する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業中で扱う範囲のテキストを毎回予習して授業に臨むこと。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクションと“Up at the Villa”を読む(pp.1-10) 2. “Up at the Villa”を読む(pp.11-20) 3. “Up at the Villa”を読む(pp.21-30) 4. “Up at the Villa”を読む(pp.31-40) 5. “Up at the Villa”を読む(pp.41-50) 6. “Up at the Villa”を読む(pp.51-60) 7. “Up at the Villa”を読む(pp.61-70) 8. “Up at the Villa”を読む(pp.71-80) 9. “Up at the Villa”を読む(pp.81-90) 10. “Up at the Villa”を読む(pp.91-100) 11. “Up at the Villa”を読む(pp.101-110) 12. “Up at the Villa”を読む(pp.111-114) 13. 期末テスト <p>[成績評価方法]</p> <p>平常の授業への取り組み(20%)、口頭発表(30%)、レポート試験(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>小テストについては全体的に指導、期末レポートについては希望者のみ個別で対応する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>r-watanabe@suma.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	英語講読(b)
担当者	渡邊 理恵子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 平常の授業への取り組み、口頭発表、レポートの内容</p> <p>[テキスト(ISBN)] 『Up at the Villa女ごころ』 著者名:W. Somerset Maugham 著 林原 耕三 編注 出版社:南雲堂 (9.7845230361e+12)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	英語コミュニケーション(a)		
担当者	水野 尚之		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			

[到達目標]

- ①文語、口語のどちらの一方にも偏ることなく、バランスのとれた表現力を身につけることができる。
- ②自身の英語力を自覚することを通じて、自然な英文とはどのようなものかについて十分理解できるようになる。
- ③言葉のもつ、多様でニュアンス豊かな表現のあり方を感じ、言語表現に対する感性を鍛錬することができる。
- ④自分の思いを相手にうまく伝えることができるようになる。

[授業概要]

テキスト『Make Your Way』を用いて、英語の文法を再確認し、あわせて日常の平易な慣用表現を習得するためのタスクを行ないます。
毎回、十分な準備と、しっかりした心構えで出席することが必要です。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回の講義についての予習・復習を行なうこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。

[授業計画]

1. 授業の進め方のガイダンス。
2. Unit 1 Introduction in the USAのタスクを行ない、動詞の使い分けを学びます。
3. Unit 2 The Natural Wonders of Icelandのタスクを行ない、進行中の動詞を学びます。
4. Unit 3 Getting Around the UKのタスクを行ない、否定文や疑問文を学びます。
5. Unit 4 Tackling Rugby in Irelandのタスクを行ない、命令や指示を学びます。
6. Unit 5 Norwegian Folktalesのタスクを行ない、過去形を学びます。
7. Unit 6 Food Tour in Germanyのタスクを行ない、未来形を学びます。
8. Unit 7 Austrian Symphonyのタスクを行ない、WH疑問文を学びます。
9. Unit 8 The Animals of Maltaのタスクを行ない、助動詞を学びます。
10. Unit 9 Moroccan Souvenirsのタスクを行ない、現在完了形を学びます。
11. Unit 10 Spanish Dancing LessonsAのタスクを行ない、受動態を学びます。
12. Unit 11 Fashion Week in Franceのタスクを行ない、最上級を学びます。
13. テキストや和文英訳についての理解度確認テスト・解説を行ないます。

[成績評価方法]

理解度確認テスト(60%)、小テスト(20%)、授業態度(20%)で評価します。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

理解度確認テストを回収後、解答の解説を行ないます。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

n-mizuno@suma.kobe-wu.ac.jp

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(a)
担当者	水野 尚之
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 理解度確認テスト(60%)、小テスト(20%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] Make Your Way 著者名: 田地野 彰 他 出版社: 金星堂 (978-4-7647-4196-6)</p> <p>[参考文献(ISBN)] 授業中に紹介します。</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	英語コミュニケーション(a)		
担当者	桂山 康司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①文語、口語のどちらの一方にも偏ることなく、バランスのとれた英語表現力を身に付けることができる。 ②自身の英語力を自覚することを通じて、自然な英文とはどのようなものかについて十分理解できるようになる。 ③言葉のもつ、多様でニュアンス豊かな表現のあり方を感じ、言語表現に対する感性を鍛錬することができる。 ④自分の思いを相手にうまく伝えることができるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>～アカデミックイングリッシュの特質～ 欧米の標準的な知識人がどの程度の教養をもち、どのような英文を読み書きしているのかを、アカデミックイングリッシュの実例を通じて実感し、英語史や文化的背景についての理解を深めます。そのために、アメリカの女流生物学者・ネイチャーライター・環境保護運動家であるレイチェル・カーソン(1907-64)の古典的著作『沈黙の春』を精読します。自然破壊を告発した本書は、同時に、自然の驚異を科学の目で感受性豊かに描いたものでもあり、単に運用能力強化に資するばかりでなく、言語表現の奥行きをも実感できるものです。 毎回、十分な準備と、しっかりした心構えで出席することが必要です。がんばりましょう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入。教養教育における外国語教育の意義とその目的を解説し、加えて、アカデミックイングリッシュを目標とする理由を説明する。 2. テキストpp. 7~8を精読します。 3. テキストpp. 8~9を精読します。 4. テキストpp. 9~10を精読します。 5. テキストpp. 10~11を精読します。 6. テキストpp. 11~12を精読します。 7. テキストpp. 12~13を精読します。 8. テキストpp. 13~14を精読します。 9. テキストpp. 14~15を精読します。 10. テキストpp. 15~16を精読します。 11. テキストpp. 16~17を精読します。 12. テキストpp. 17~18を精読します。 13. テキスト本文についての理解度確認テスト・解説。 <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認テスト(50%)、小テスト(20%)、授業態度(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>k-katsurayama@suma.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(a)
担当者	桂山 康司
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養1-1】自らの専門領域を越え、社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 理解度確認テスト、小テスト、授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] 『Silent Spring』Vol. 1 著者名: Rachel Carson 出版社: 英宝社 (978-4-269-18042-0)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	英語コミュニケーション(a)		
担当者	桂山 康司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①文語、口語のどちらの一方にも偏ることなく、バランスのとれた表現力を身に付けることができる。 ②自身の英語力を自覚することを通じて、自然な英文とはどのようなものかについて十分理解できるようになる。 ③言葉のもつ、多様でニュアンス豊かな表現のあり方を感じ、言語表現に対する感性を鍛錬することができる。 ④自分の思いを相手にうまく伝えることができるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>～基本動詞の習得と基礎的表現力の強化～ 欧米の標準的な人がどの程度の教養をもち、どのような英文を読み書きしているのかを、標準英語による実例を通じて実感し、英語表現の特質や文化的背景についての理解を深める。 毎回、十分な準備と、しっかりした心構えで出席することが必要です。がんばりましょう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <p>『5分間 基本動詞を用いた実用英語表現』を用いて日常の平易な慣用表現を習得するためのドリルを行います。同時に、プリントを用いて英文和訳の基礎的訓練を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入。基本動詞や慣用句について、また、口語表現と文語表現のそれぞれの特徴について解説します。 2. 『基本動詞』UNIT1(GIVE)に取り上げられている熟語、慣用句についての解説。加えて、和文英訳問題プリントにある第1回課題文を英訳してきてもらい、板書等を用いて添削指導を行います。 3. 『基本動詞』UNIT1(GIVE)に対する設問の解答。同UNIT 2(GIVE)に取り上げられている熟語、慣用句についての解説。加えて、和文英訳問題プリントにある第2回課題文を英訳してきてもらい、板書等を用いて添削指導を行います。 4. 『基本動詞』UNIT 2(GIVE)に対する設問の解答。同UNIT 3(GET)に取り上げられている熟語、慣用句についての解説。加えて、和文英訳問題プリントにある第3回課題文を英訳してきてもらい、板書等を用いて添削指導を行います。 5. 『基本動詞』UNIT 3(GET)に対する設問の解答。同UNIT 4(GET)に取り上げられている熟語、慣用句についての解説。加えて、和文英訳問題プリントにある第4回課題文を英訳してきてもらい、板書等を用いて添削指導を行います。 6. 『基本動詞』UNIT 4(GET)に対する設問の解答。同UNIT 5(HAVE)に取り上げられている熟語、慣用句についての解説。加えて、和文英訳問題プリントにある第5回課題文を英訳してきてもらい、板書等を用いて添削指導を行います。 7. 『基本動詞』UNIT 5(HAVE)に対する設問の解答。同UNIT 6(HAVE)に取り上げられている熟語、慣用句についての解説。加えて、和文英訳問題プリントにある第6回課題文を英訳してきてもらい、板書等を用いて添削指導を行います。 8. 『基本動詞』UNIT 6(HAVE)に対する設問の解答。同UNIT 7(TAKE)に取り上げられている熟語、慣用句についての解説。加えて、和文英訳問題プリントにある第7回課題文を英訳してきてもらい、板書等を用いて添削指導を行います。 9. 『基本動詞』UNIT 7(TAKE)に対する設問の解答。同UNIT 8(TAKE)に取り上げられている熟語、慣用句についての解説。加えて、和文英訳問題プリントにある第8回課題文を英訳してきてもらい、板書等を用いて添削指導を行います。 10. 『基本動詞』UNIT 8(TAKE)に対する設問の解答。同UNIT 9(MAKE)に取り上げられている熟語、慣用句についての解説。加えて、和文英訳問題プリントにある第9回課題文を英訳してきてもらい、板書等を用いて添削指導を行います。 11. 『基本動詞』UNIT 9(MAKE)に対する設問の解答。同UNIT 10(MAKE)に取り上げられている熟語、慣用句についての解説。加えて、和文英訳問題プリントにある第10回課題文を英訳してきてもらい、板書等を用いて添削指導を行います。 12. 『基本動詞』UNIT 10(MAKE)に対する設問の解答。加えて、和文英訳問題プリントにある第11回課題文を英訳してきてもらい、板書等を用いて添削指導を行います。口語表現の特質についての補足説明を行います。 13. テキストや和文英訳についての理解度確認テスト・解説。 <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認テスト(50%)、小テスト(20%)、授業態度(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>k-katsurayama@suma.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(a)
担当者	桂山 康司
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養1-1】自らの専門領域を越え、社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 理解度確認テスト、小テスト、授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] 『5分間 基本動詞を用いた実用英語表現』 著者名: 友繁義典 他 著 出版社: 南雲堂 (978-4-523-17764-7)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	英語コミュニケーション(b)		
担当者	水野 尚之		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①クローズ・リーディング(close reading)を実践することで、優れた英文をじっくり味わうことができるようになる。 ②言葉のもつ、多様でニュアンス豊かな表現のあり方を感じ、言語表現に対する感性を鍛錬することができる。 ③相手の気持ちや内面を正しく理解できるようになる。 ④異文化理解を通じて、人間理解を深めることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>単に表面上の大意を把握するだけでは飽き足らずに、さらに、言葉のもつ、多様でニュアンス豊かな表現のあり方を感じ得るには、文学に親しむことが一番の近道です。しかし、文学というのはいかに寄りかたいところがあって、文学作品をただ漫然と読むだけでは、どこまで味わうことができているのか、おぼつかないところがあり、いわんや、日本人には外国語である英語で書かれた作品を味読するとなればその困難は言うまでもないでしょう。そんな悩みのある方にお勧めなのが、英文は平易と見えても、その語る内容には、簡単には読み飛ばせない、奥行きを感じさせる古典作品の講読です。ここでは、イギリスの小説家ロアルド・ダールの小説の佳品“Charlie and the Chocolate Factory”を、こまやかな想いの一つ一つを丹念に拾い上げながら精読し、愛や人というものについて、一緒に考えてみましょう。 毎回、十分な準備と、しっかりした心構えで出席することが必要です。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入。ダールの小説の表現上の特徴を解説します。作品の映画も鑑賞します。 2. テキストChapter 1を精読します。 3. テキストChapter 2を精読します。 4. テキストChapters 3-4を精読します。 5. テキストChapters 5-6を精読します。 6. テキストChapters 7-8を精読します。 7. テキストChapters 9-10を精読します。 8. テキストChapters 11-12を精読します。 9. テキストChapters 13-14を精読します。 10. テキストChapters 15-16を精読します。 11. テキストChapters 17-18を精読します。 12. テキストChaptersを 19-20を精読します。 13. テキストについての理解度確認テスト・解説を行ないます。 <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認テスト(60%)、小テスト(20%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>理解度確認テストを回収後、解答の解説を行ないます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>n-mizuno@suma.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(b)
担当者	水野 尚之
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 理解度確認テスト(60%)、小テスト(20%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 『Charlie and the Chocolate Factory』 著者名:Roald Dahl 出版社:Viking</p> <p>[参考文献(ISBN)] 授業中に紹介します。</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	英語コミュニケーション(b)		
担当者	桂山 康司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①クローズ・リーディング(close reading)を実践することで、優れた英文をじっくり味わうことができるようになる。 ②言葉のもつ、多様でニュアンス豊かな表現のあり方を感じ、言語表現に対する感性を鍛錬することができる。 ③相手の気持ちや内面を正しく理解できるようになる。 ④異文化理解を通じて、人間理解を深めることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>～文学的表現の味読～ 単に表面上の大意を把握するだけでは飽き足らずに、さらに、言葉のもつ、多様でニュアンス豊かな表現のあり方を感じするには、優れた英文の実例、例えば、文学作品に親しむことが一番の近道です。しかし、文学などというものはどこか近寄りたいたいところがあって、ただ漫然と読むだけでは、どこまで味わうことができているのか、おぼつかないところがあり、いわんや、日本人には外国語である英語で書かれた作品を味読するとなればその困難は言うまでもないでしょう。そんな悩みのある方にお勧めなのが、英文は平易と見えても、その語る内容には、簡単には読み飛ばせない、奥行きを感じさせる古典作品や名演説文等の味読です。 毎回、十分な準備と、しっかりした心構えで出席する必要があります。がんばりましょう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入。短編小説や童話の表現上の特質を、長編小説や詩と対比することで、解説します。 2. テキストpp. 25~26を精読します。 3. テキストpp. 27~28を精読します。 4. テキストpp. 29~30を精読します。 5. テキストpp. 31~32を精読します。 6. テキストpp. 33~34を精読します。 7. テキストpp. 9~11を精読します。 8. テキストpp. 11~13を精読します。 9. テキストpp. 14~16を精読します。 10. テキストpp. 16~18を精読します。 11. テキストpp. 19~21を精読します。 12. テキストpp. 21~23を精読します。 13. テキスト本文についての理解度確認テスト・解説。 <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認テスト(50%)、小テスト(20%)、授業態度(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>k-katsurayama@suma.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(b)
担当者	桂山 康司
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 理解度確認テスト、小テスト、授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] 『The Happy Prince and Other Stories』 著者名: Oscar Wilde 出版社: 英宝社 (978-4-269-01130-4)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	英語コミュニケーション(b)		
担当者	桂山 康司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①クローズ・リーディング(close reading)を実践することで、優れた英文をじっくり味わうことができるようになる。 ②言葉のもつ、多様でニュアンス豊かな表現のあり方を感じ、言語表現に対する感性を鍛錬することができる。 ③相手の気持ちや内面を正しく理解できるようになる。 ④異文化理解を通じて、人間理解を深めることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>～文学的表現の味読～ 単に表面上の大意を把握するだけでは飽き足らずに、さらに、言葉のもつ、多様でニュアンス豊かな表現のあり方を感じするには、優れた英文の実例、例えば、文学作品に親しむことが一番の近道です。しかし、文学などというものはどこか近寄りたいたいところがあって、ただ漫然と読むだけでは、どこまで味わうことができているのか、おぼつかないところがあり、いわんや、日本人には外国語である英語で書かれた作品を味読するとなればその困難は言うまでもないでしょう。そんな悩みのある方にお勧めなのが、英文は平易と見えても、その語る内容には、簡単には読み飛ばせない、奥行きを感じさせる古典作品や名演説文等の味読です。 毎回、十分な準備と、しっかりした心構えで出席する必要があります。がんばりましょう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入。短編小説の表現上の特質を、長編小説や詩と対比することで、解説します。 2. テキストpp. 1~3を精読します。 3. テキストpp. 4~7を精読します。 4. テキストpp. 8~11を精読します。 5. テキストpp. 12~15を精読します。 6. テキストpp. 16~19を精読します。 7. テキストpp. 20~22を精読します。 8. テキストpp. 23~25を精読します。 9. テキストpp. 26~28を精読します。 10. テキストpp. 29~32を精読します。 11. テキストpp. 33~36を精読します。 12. テキストpp. 37~40を精読します。 13. テキスト本文についての理解度確認テスト・解説。 <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認テスト(50%)、小テスト(20%)、授業態度(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>k-katsurayama@suma.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	英語コミュニケーション(b)
担当者	桂山 康司
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 理解度確認テスト、小テスト、授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] 『Twentieth-Century British Authors』 著者名: 九頭見一士 編注 出版社: 金星堂 (4-7647-0356-4)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	音楽鑑賞	(音楽への誘い)	
担当者	小松原 祥子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①音楽を聴き、そこにあるメッセージや基本的な特徴を感じとることができる。 ②感じたことを言葉や絵で表現することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>音源や映像を用いて、西洋音楽の歴史的流れに沿った視点と、音楽の構造的な魅力に基づいた選曲により、分かりやすい解説を加えながら鑑賞します。グループワークによって時代ごとの特徴を感じます。 受講人数は40名以内に制限を行います。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <p>様々な音源や映像を用いた各回のテーマについての講義と、特徴的な曲の表現やグループワークによって音楽理解を深めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 様々な時代の音楽の魅力 2.バロックから古典派へ 3.ウィーン古典派 ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェン 4.古典派のオペラ・声楽曲 5.古典派からロマン派へ(ヴィルトゥオーゾとサロン音楽) 6.ロマン派のオペラ・声楽曲 7.ロマン派 音楽の巨大化 ポスト・ベートーヴェンの交響曲 8.近代:音の光と影 印象派の世界(ドビュッシーとラヴェル) 9.現代:西洋と日本の現代音楽 10.音楽史まとめ 様々な楽器の独奏曲の魅力 11.比較鑑賞① テンポ 拍子とリズム 12.比較鑑賞② メロディー 対照と構造 13.古今東西のソリストたち <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(20%)、ワークシート(50%)、小テスト(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>ワークシートは、特徴的な内容を授業内で紹介した上で、コメントします。 発表については授業内で講評します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>skomatsubara@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	音楽鑑賞 (音楽への誘い)
担当者	小松原 祥子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、ワークシート、小テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし(適宜、プリントを配布します)</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『音楽史を学ぶ 古代ギリシャから現代まで』 著者名: 久保田慶一 出版社: 教育芸術社 (978-4877887889)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	キャリアへのアプローチ I		
担当者	福井 愛美、大串 美沙		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>① 短期大学生としてのスタディー・スキルを実践することができる。 ② 仕事を核にしたライフデザインを描くことができる。 ③ さまざまな業種や職業があり、多様な生き方の選択があることを理解することができる。 ④ 自分に合った職業とは何かを見つけることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>各回によって、ファイナンシャルプランナーや企業の人事担当者など幅広い分野で活躍している実務家が、社会の仕組みや自立心を培うキャリア教育について指導します。 最初に適正診断ツールを活用して学生自らの能力を分析し、在学中のどのような点に力を注いで学習すればよいかを見出します。また、さまざまな就労モデルと働き方について知り、ワーク・ライフ・バランスや、職業人の常識である労務知識、社会保険制度について学習します。内容に応じて外部講師を招聘し、キャリアサポートセンターとも連携した授業を実施します。 就職活動の準備として、さまざまな課題に取り組んでください。 「秘書士」「プレゼンテーション実務士」資格の必修科目です。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日々の新聞やテレビ等でのニュースに関心をもち、経済界の動向を知ることを自主学習とします。外部講師を招いて話を聞いた授業では、必ず振り返りを書きますので授業時間内に提出してください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション(福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・ノートテイキングとレポートの書き方、授業の進め方について 理事長講話(福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神、学園の教育綱領、行吉学園の歴史・現在・未来 MATCH PLUS 受検(福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・自己分析と個々の適性診断 就職活動の流れ(福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・就活用語を知る ・インターンシップや資格について・Sナビ登録をする 働き方と生きがい(外部講師、福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人で働く意味 ワーク・ライフ・バランスとは(外部講師、福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・女性の生涯と仕事とのバランス 企業・仕事研究 I(福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・ガクチカの書き方 ・日本語力やプレゼンテーション力について 就職活動へのアプローチ(福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・自己管理と時間管理(タイムスケジュール) ・夏のインターンシップについて 女性のための労務知識(外部講師、福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての義務(税金、社会保険)、働く人の権利等について 職業と仕事理解 I(外部講師、福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミ関係の仕事を知る 職業と仕事理解 II(外部講師、福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな企業を知る、非正規と正規社員の違い ・学生と社会人との違い 企業・仕事研究 II(福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用と情報収集について 各自のキャリアデザインを描く(福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・ラーニングスキル(文章力やプレゼンテーション力)を活かしてキャリアデザインを構築する ・振り返りとレポート提出 <p>[成績評価方法]</p> <p>提出物(70%)、レポート(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートは後日添削をして返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(大串) moogushi@kwjc.kobe-wu.ac.jp (福井) afukui@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名、氏名、授業名を記載し、質問事項を記入して下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	キャリアへのアプローチ I
担当者	福井 愛美、大串 美沙
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 提出物、レポートで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 各回に必要なプリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『就職の手引き2023』 著者名: キャリアサポートセンター 出版社: 株式会社ディスコ</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	キャリアへのアプローチⅡ		
担当者	福井 愛美、大串 美沙		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>① 就職サイトが活用できるようになる。 ② エントリーシートが書けるようになる。 ③ 就職試験のためのマナーとして、文書・電話・Eメールが的確に使えるようになる。 ④ 面接で自信をもって自己PRができるようになる。 ⑤ 就職のためのグループディスカッションができるようになる。 ⑥ 自らの希望・実力に見合った就職先を見つけることができるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>回によっては、キャリアアドバイザーの経験を有する者が、就職活動など実践的な指導を行います。 業種や職種を理解するとともに、就職試験の具体例を知り、自らの希望職種の就職試験への計画を立てます。エントリーシートや履歴書を作成するにあたり、自己PRや志望動機を書く実習を行います。また、面接試験の準備として、社会人としてのマナーを習得し、実際にグループディスカッションや模擬グループ面接を行います。 前期に「キャリアへのアプローチⅠ」の単位を修得した学生の継続受講を希望しますが、後期だけでも履修できます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>キャリアへのアプローチⅡは演習授業のため、授業を休んだ場合には必ず自主的に休んだ日の内容を確認し、提出物があれば提出してください。毎回、就職に直接役立つ授業内容が実施されますので、必ず復習をして完成させ、実際に活用できるよう準備をしてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 就職試験へのアプローチ(福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動に向けて、2年次生の動向を知る ・ビジネスマナーの基本を身に付ける 自己分析Ⅰ(福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・自己PR、学生時代に力を注いだこと 先輩の体験談(福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・本学の卒業生の話をきく、質疑応答 就職サイトの活用法(福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・秋冬のインターンシップについて 自己分析Ⅱ(福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・履歴書、志望動機の書き方 就職試験のための文書、電話、Eメール実習(福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動に必要な電話、Eメール、送付状の実習 企業説明会のためのマナー(福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、言葉づかい、次回模擬面接の準備 模擬面接1実施(福井・大串、外部面接官) <ul style="list-style-type: none"> ・4～5教室に分かれて模擬グループ面接実施する 面接を振り返って、その対策 <ul style="list-style-type: none"> ・模擬グループ面接の反省と対策について(福井・大串) 模擬面接2実施(福井・大串、外部面接官) <ul style="list-style-type: none"> ・各教室に分かれて、面接練習を実施、初回を振り返り、改善して臨む グループディスカッションのためのマナー(福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションとは、次回グループディスカッションの準備 グループディスカッション実施(福井・大串、外部面接官) <ul style="list-style-type: none"> ・4～5教室に分かれてグループディスカッションを実施 自己を客観的に振り返る(福井・大串) <ul style="list-style-type: none"> ・就活計画書を作成する <p>[成績評価方法]</p> <p>各回での課題提出物(50%)と積極的な授業への参加度(30%)、レポート(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>提出物は後日添削をして返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(大串) moogushi@kwjc.kobe-wu.ac.jp (福井) afukui@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名、氏名、授業名を記載し、質問事項を記入して下さい。</p>			

授業科目名 (副題)	キャリアへのアプローチⅡ
担当者	福井 愛美、大串 美沙
<p>【この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)】</p> <p>【教養3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法:積極的な授業への参加と課題提出物の内容で評価します。</p> <p>【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法:積極的な授業への参加とレポートで評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] プリントを配付する</p> <p>[参考文献(ISBN)] 各種就職のための参考書 就職の手引き 著者名:神戸女子大学・神戸女子短期大学 キャリアサポートセンター 出版社:株式会社ディスコ</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	教育学 (赤ちゃんを学ぼう)
担当者	平野 直美、桐原 美恵子、安田 則子
[アクティブラーニング授業]	
PBL(課題解決型)	反転授業
ディスカッション・ディベート	グループワーク
プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
その他	
<p>[到達目標]</p> <p>①将来を担う子ども達を愛情豊かに育てていくには何が大切か、どのようにすればよいのかを深く理解することができるようになる。</p> <p>②幼児教育に関する幅広い知識や多角的思考力および柔軟で創造性に富んだ思考力を身に付けることができるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>女性はお母さんになりうる性です。子どもを生み育てるとき、赤ちゃんってふしぎ！子どもってどんなことを考えているの？いろいろな疑問が生まれてきます。子どもを教育するには子どもの心を理解することがとても大切ですが、最近はお母さんになりきれないお母さんがわが子を虐待するなど子育てに大きな問題ができています。愛で子どもを育てるお母さんになれるように、子どもの心理や母子のふれあいを科学的に考えていくことがこの講義のねらいです。子どもの発達を脳科学の側面から科学的視野に立って学んでいきます。次に乳児の発育・発達、現代の子育てを取り巻く課題を考えていきます。さらに子どもの発達によりよい援助を、子どもを取り巻く環境や子どもの生活、遊びと表現、日本の伝統文化を通して学びます。</p> <p>幼児教育を広い視野から考えていく力を身に付けてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各担当教員が講義中に示す参考図書や参考資料を各自で調べて自主学習を行ってください。 また各担当教員が提示する課題作成も行ってください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの発達を脳科学から考えよう <ol style="list-style-type: none"> 1. 赤ちゃん学とは何か(平野) 2. 赤ちゃんの脳では何が起きているの?(平野) 3. 子どもの脳の発達と臨界期(平野) 4. 脳と心の関係・マルチトリートメントが脳に及ぼす影響について(平野) 5. 赤ちゃんの脳の発達に大切なこと(平野) 2) 乳児の発育・発達について学ぼう <ol style="list-style-type: none"> 6. 乳児の発育・発達について(安田) 7. 現代の乳児を取り巻く環境と課題について(安田) 8. 乳児期の子育てについて大切なこと(安田) 3) 子どもの発達によりよい援助を考えよう <ol style="list-style-type: none"> 9. 子どもと環境(桐原) 10. 子どもと生活(桐原) 11. 子どもと遊び(桐原) 12. 子どもと日本の伝統文化(桐原) 13. 子どもの表現(桐原) <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(10%)、各担当教員の指示する提出物(90%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>提出物は、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>nhirano@kwjc.kobe-wu.ac.jp (平野) mkirihara@kwjc.kobe-wu.ac.jp (桐原) n-yasuda@kwjc.kobe-wu.ac.jp (安田)</p> <p>質問等がある場合は、メール本文に、学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>	

授業科目名 (副題)	教育学 (赤ちゃんを学ぼう)
担当者	平野 直美、桐原 美恵子、安田 則子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【教養1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、提出物</p> <p>【教養2-1】自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、提出物</p> <p>[テキスト(ISBN)] 資料としてハンドアウトを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 講義中に紹介します。</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	芸術表現学		
担当者	川村 高弘		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①芸術表現の歴史について理解することができる。 ②現代社会の中で必要な美的感覚と感性を高めることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>日本および世界の様々な音楽や美術といった芸術表現について、様々な音源や映像を鑑賞し、多様な視点から理解を深めていきます。また、芸術表現の歴史を理解し、芸術家の人物像・文化的背景・芸術構造などについても学びます。 自己課題をもって意欲的に授業に参加してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業中に紹介した作品については、図書館等を利用しながら復習し、作品の内容についての理解を深めてください。また、講義内容についても復習をし、自己課題について探求してください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 芸術表現の意義 2. 現代美術を理解するための基礎知識①(色彩) 3. 平面における造形表現の実際 4. 現代美術を理解するための基礎知識②(構図・構成美) 5. 現代美術を理解するための基礎知識③(彫刻) 6. 立体における造形表現の実際 7. 中世の芸術表現とルネサンスの芸術表現 8. バロックの芸術表現とロココの芸術表現 9. 古典主義とロマン主義の芸術表現 10. 近現代の芸術表現 11. ミュージカルの歴史 12. ミュージカル鑑賞 13. 芸術表現における課題 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(20%)、レポート・課題・作品等の提出物(20%)、小テスト(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題は提出後、添削して返却します。小テストは、回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>tkawamura@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メールの件名に授業名・学科名・氏名を記載し、メール本文に質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	芸術表現学
担当者	川村 高弘
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度(20%)、レポート・課題・作品等の提出物(20%)、小テスト(60%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリント資料を配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『はじめての音楽史』 著者名: 片桐功・須貝静直ら(編) 出版社: 音楽之友社 (4-276-11010-6) 『西洋美術史』 著者名: 高階秀爾(監修) 出版社: 美術出版社 (4-568-40030-9) 『日本美術史』 著者名: 辻惟雄(監修) 出版社: 美術出版社 (4-568-40034-1)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	健康・生活支援指導論実習		
担当者	賀屋 光晴		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>(1)スポーツに関する幅広い知識と技術が習得できる。 (2)健康づくりと運動との関係に関する知識を身につけることができる。 (3)状況や対象に合わせた行動をとることができる。 (4)状況に応じて適切にコミュニケーションをとることができる。 (5)自分たちの考えを周囲に伝えることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>スポーツ実践を通してスポーツの楽しさを体感するとともに、運動習慣を身につけるための基礎を身につける。また、障害者スポーツなど様々なスポーツを体験することでスポーツの持つ奥深さや多様性を知る。さらに、身体表現(創作ダンス)の実践などにより、表現力を身につける。</p> <p>(1)指示された場所で運動服に着替え、また体育館内では必ず体育館シューズを着用すること(服装不備の場合は授業に参加できない)。 (2)更衣をすませ、兵庫医科大学神戸キャンパスG棟アリーナ2階に集合する。 (3)ピアス、ネックレスなどの装飾品は身につけない。 (4)その他、必要な注意事項に関しては随時指示を与える。(授業場所の変更等) (5)授業は全15回開講するため、授業の日程に注意すること。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業前後にウォーミングアップ、クールダウンを充分に行なう。 ストレッチを毎日5分程度行なう。 中等度程度の強度の運動・活発な身体活動を週3回程度行なう。 日々の運動を記録し、定期的に振り返りを行なう。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、スポーツ実践(身体表現 創作) 2. スポーツ実践(身体表現 創作) 3. スポーツ実践(身体表現 創作) 4. スポーツ実践と評価法(身体表現の発表(実践)と評価) 5. スポーツ実践1(バスケットボール、ショートテニス、トレーニング など) 6. スポーツ実践1(バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ) 7. スポーツ実践1(バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ) 8. スポーツ実践2(バスケットボール、ショートテニス、トレーニング など) 9. スポーツ実践2(バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ) 10. スポーツ実践2(バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ) 11. 体力の測定と評価 12. 体力の測定と評価 13. スポーツ実践3(バスケットボール、ショートテニス、トレーニング など) 14. スポーツ実践3(バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ) 15. スポーツ実践3(バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ)、まとめ <p>[成績評価方法]</p> <p>(1)授業に関連したレポートを実施する(必須)。 (2)参加態度(30%)、協調性(20%)、習熟度(15%)、課題実施程度(15%)、レポート(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>必要に応じて個別に対応する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>kaya@hyo-med.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	健康・生活支援指導論実習
担当者	賀屋 光晴
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。 成績評価方法: 参加態度等、課題レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 新版 生活健康科学 著者名: 小田切陽一、小山勝弘、石原逸子 共著 出版社: 三共出版 (978-4-7827-0618-3) 運動処方指針: 運動負荷試験と運動プログラム(原書第8版) 著者名: 編: アメリカスポーツ医学会、日本体力医学会 出版社: 南江堂 (978-4-524-26216-8) 運動生理学(第2版) 生理学の基礎から疾病予防まで 著者名: 小山勝弘、安藤大輔 編著 出版社: 三共出版 (978-4-7827-0802-6) 健康・スポーツ科学講義 第2版 著者名: 出村慎一監修 出版社: 杏林書院</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	健康づくり・生活支援ワークショップ		
担当者	片田 千尋、石原 あや		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>(1)子育ての営みに関係する事柄が列記できる。 (2)文化について具体的に述べることができる。 (3)現代の子育ての特徴が説明できる。 (4)現代の子育ての問題、課題、解決のための対策について考えることができる。 (5)子育てについて、自分の考えを述べることができる。 (6)課題のグループワークに積極的に参加し、自分の意見を述べることができる。 (7)各ライフステージにおけるセクシュアリティの意味と課題について議論し、自己の考えを述べることができる。 (8)様々な健康レベルにおけるセクシュアリティの意味と</p> <p>[授業概要]</p> <p>この講義は、「子育てと文化」と「ヒューマンセクシュアリティと看護」の2つから成る。 (1)子育てと文化 子育てをめぐる社会状況・社会システムの変化、地域社会の変化等に伴う子ども親や育児親の変遷を追いながら、現代の子育ての問題や課題について考えていく。また子育てをテーマにした映画の鑑賞、乳幼児期の親子とのふれあいの機会を設け、育児の実際について理解を深める。 (2)ヒューマンセクシュアリティと看護 本科目では、セクシュアリティに関する基本的な知識を獲得し、様々な環境や立場、価値観をもつ人におけるセクシュアリティの多様性や課題について考える。また、セクシュアルマイノリティのピアサポートや関連法案の策定に関わる特別講師から、性の多様性、LGBTQのおかれる現状、当事者運動などについて講義を受け、セクシュアリティを基本的人権として捉え、その意味や課題について考える。上記の考えを通して、自己のセクシュアリティについて改めて考え、他者のセクシュアリティを尊重するための態度や支援について深く考える力を身につける。</p> <p>この科目の担当者は、看護師・助産師として臨床経験をもつ教員と、LGBTQのピアサポート活動や政策策定に関連した実務経験のある教員である。 そのため、実際の経験も交えて例を示すことで、深い学びや思考につなげる。</p> <p>本授業はグループワークと学生の発表によって進行するため、事前学習なしでは参加できません。事前学習を行い、積極的に授業およびグループワークに参加してください。 また、日頃から新聞、テレビニュース、雑誌等で子育て、育児、虐待、暴力、人権、性、セクシュアルマイノリティ、ジェンダー等に関連するトピックに関心を払うように心がけてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業前:グループワークのテーマに関する事前学習【2時間】 授業後:深めたい点に関する追加学習【1時間】 全授業終了後:各自が関心を持った問題や課題を1つ取り上げ、まとめのレポートを作成する【4時間】</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子育てと文化－授業ガイダンス(石原) 2. 子育ての実際(子育てをテーマにした映画の鑑賞)(石原) 3. 子育ての実際(赤ちゃん先生)(ゲストスピーカー・石原) 4. 現代の子育て事情(グループワーク)(石原) 5. 子育てにまつわる文化的慣習(グループワーク)(石原) 6. 母性愛神話・3歳児神話(グループワーク)(石原) 7. 海外の子育て(グループワーク)(石原) 8. 子育てについての悩み(グループワーク)(石原) 9. ヒューマンセクシュアリティと看護－授業ガイダンス(片田) 10. セクシュアルマイノリティ(講義)(特別講師・片田) 11. ジェンダーとセクシュアリティ(ディスカッション)(片田) 12. ライフステージとセクシュアリティ(ディスカッション)(片田) 13. 障がいとセクシュアリティ(ディスカッション)(片田) 14. セクシュアリティに関する課題とその支援(プレゼンテーション)(特別講師・片田) 15. セクシュアリティに関する課題とその支援(プレゼンテーション)(片田) 16. まとめ セクシュアリティに関する考えの統合 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業への参加度(事前学習レポート、講義の感想レポート、グループディスカッションに関するレポート、プレゼンテーションへの参加度を重視)70%、最終レポート30% なお、本授業では定期試験は行わない。提出物の期限を遵守しない場合は減点対象とする。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>グループワークについては各授業内で、講義の感想やレポートについては最終授業のまとめでフィードバックを行い、より深い思考につなげる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>a-ishihara@hyo-med.ac.jp(石原) c-katada@hyo-med.ac.jp(片田)</p>			

授業科目名 (副題)	健康づくり・生活支援ワークショップ
担当者	片田 千尋、石原 あや
<p>【この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)】 【教養1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法:授業への参加度(事前学習レポート、講義の感想レポート、グループディスカッションに関するレポート、プレゼンテーションへの参加度を重視)70%、最終レポート30% ・ なお、本授業では定期試験は行わない。提出物の期限を遵守しない場合は減点対象とする。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 適宜、各担当者が資料を配付する</p> <p>[参考文献(ISBN)] 随時紹介する</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	神戸学		
担当者	山内 有香子、宮本 晃郎、道谷 卓		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標] 神戸の歴史や文化について教養を深め、地域の様々な文化や歴史に興味を持ち多様な視点からとらえることができる。</p> <p>[授業概要] ①地元の企業経営者等が、オムニバス形式により、神戸の歴史・文化について講義をします。 ②この授業は、神戸の豊かな歴史と文化の営みを、多角的な視点から学習しようとするものです。歴史という点からは、古くから知られる神戸の地域的特性や明治以降の神戸の産業発展、そして中国とのつながりについて、また、文化面では、芸術、服飾、料理、スポーツ等多彩な分野に亘って神戸との関わりについて学んでいきます。ふだん目や耳にする光景や言葉に込められた、奥深い歴史と文化を講義の中から感じとってくれることを望んでいます。それには、講義で紹介される関係文献に目を通すことはもちろん、興味をいだいた「場」にぜひ積極的に出かけ、肌で文化と歴史を感じていくことをお勧めします。 ③積極的に授業に参加してください。複数の先生が担当し、内容が多岐にわたるので、各時間の内容をまとめておくよう心がけてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各担当教員からの指示のある図書や文献を次回までに読んでおいてください。 復習を中心の4時間程度の前後学習をする。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション、神戸について (山内有香子) 2. 創業108年 豚饅発祥の老祥記が大切にしているブランディング、店づくり、まちづくり (学外特別講師(株)老祥記 専務取締役 曹 祐仁、山内有香子) 3. 生田神社・神楽生田舞の誕生から考える神戸の歴史 (学外特別講師 生田神社宮司 酒井康博、山内有香子) 4. 神戸のスポーツ・芸能・下町文化 (宮本晃郎) 5. 神戸が誇る食文化とファッション文化 (宮本晃郎) 6. 神戸の水災・戦災・震災と復旧復興 (宮本晃郎) 7. 日本菓子文化を変えた神戸スイーツの原点(学外特別講師 亀井堂総本店取締役 松井隆昌、山内有香子) 8. 神戸の歴史・序説 (道谷 卓) 9. 神戸の地名と伝説 (道谷 卓) 10. 平清盛、源平の争乱と神戸 (道谷 卓) 11. 「太平記」と神戸 (道谷 卓) 12. 嘉納治五郎と神戸 (道谷 卓) 13. 戦後の神戸・まとめ (山内有香子) 担当者によって、取り上げるテーマが重複する場合もあるが、取り上げ方の視点、内容の詳細などが異なるので、了解しておくこと。</p> <p>[成績評価方法] 授業の取り組み姿勢(20%)、提出課題(80%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] (山内)yyamauchi@kwjc.kobe-wu.ac.jp (宮本)ak-miyamoto@suma.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に、学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。 学外講師、道谷先生に質問等がある場合は、山内に連絡してください。</p>			

授業科目名 (副題)	神戸学
担当者	山内 有香子、宮本 晃郎、道谷 卓
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 授業の取り組み姿勢 提出課題</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 授業中に随時紹介する。</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	子どもと社会 (映画を通して学ぶ福祉や心理)
担当者	畠山 由佳子
[アクティブラーニング授業]	
PBL(課題解決型)	反転授業
ディスカッション・ディベート	○ グループワーク ○
プレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク
その他	
<p>[到達目標]</p> <p>①問題提起されたテーマに関して、基礎的な知識を得るリサーチ力を培うことができる。 ②リサーチしたうえで、自分の考えをまとめ、最終発表の場で発表できる表現力を身に付けることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>映画という教材を通して、子どもや社会・心理にかかわる様々な問題について、自主的に調べ、討論します。広い視野と知識を持ち、想像力豊かに、社会や子どもの心理にかかわる様々な問題に対して自分の意見を持つことを学びます。 * 集中講義のため、オリエンテーション1コマ+3コマX4日間でおこないます。毎回の授業の基本的な構成は、前回のワークシートをもとに自主学習したレポートを基にした映画のテーマ解説・映画鑑賞(約150分)→グループでのリサーチ・ワークシートの作成(100分)→発表(65分)の流れで行います。グループでインターネットや図書館でリサーチを行い、その考えをまとめて発表をしてもらいます。グループで協力して課題をこなすことが必要となります。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>毎回の授業の後に映画のテーマに関する疑問点について自分で調べてきてもらい、その考えをまとめてもらうレポートを課します。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、 2.映画解説「食べることで生きること」命の授業一命の長さは誰が決めるのか?、映画鑑賞 3.「食べることで生きること」リサーチ・ワークシート作成 4.「食べることで生きること」発表 5.映画テーマ解説「多様性と共生」一差別と区別、映画鑑賞 6.「多様性と共生」一差別と区別 リサーチ・ワークシート作成・ 7.「多様性と共生」一差別と区別 発表 8.映画テーマ解説「障がいがある人とその家族」、映画鑑賞 9.「障がいがある人とその家族」リサーチ・ワークシート作成 10.「障がいがある人とその家族」発表 11.映画テーマ解説「家族とは何か」、映画鑑賞 12.「家族とは何か」、リサーチ・ワークシート作成 13.「家族とは何か」発表 <p>[成績評価方法]</p> <p>各回授業でのグループディスカッション参加度(20%)、映画鑑賞後のワークシート(60%) プレゼンテーション(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>各授業後にディスカッションについて講評します。ワークシート・レポートにはコメントをつけて返却します。プレゼンテーションについてもその場で講評を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>yhatake@kwjic.kobe-wu.ac.jp (パソコンからのメールが受信できるように設定を確認してからメール送付してください)</p>	

授業科目名 (副題)	子どもと社会 (映画を通して学ぶ福祉や心理)
担当者	畠山 由佳子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【教養2-1】自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 成績評価方法: 各回授業でのグループディスカッション参加度、映画鑑賞後のワークシート、プレゼンテーション</p> <p>【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 各回授業でのグループディスカッション参加度、プレゼンテーション</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 授業中に適宜アナウンスします。</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	情報A		
担当者	堀 桂太郎		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標] 授業を通して、次のことを目標とします。 ①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる。 ②ワードを使って文書処理ができる。 ③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる。 ④インターネットを適切に利用できる。</p> <p>[授業概要] 高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきています。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身に付けることが大切です。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけでなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度の学習も必要です。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身に付けます。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルの理解について学びます。 この授業で身に付ける知識や技術は、パソコンを安全かつ、効果的に利用するための基礎となります。したがって、ここで身に付けたことは他のいろいろな授業での学習にも役に立ちます。各自でテキストを参考にしながら、特に復習や課題作成に積極的に取り組んでください。すでにパソコンを使っている人にとっても、基礎知識や技術が正しく理解できているかどうかを確認しながら学習を進めてください。基礎だからと言って学習がおろそかにならないよう、目的意識を明確にして粘り強く学習してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] タッチタイピングの練習 及び 各回の講義についての予習・復習、課題への取り組みを行ってください(各回、合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得 2. インターネット、タッチタイピング 3. 電子メール、文書作成の基礎 4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷 5. 情報セキュリティ、文書の編集 6. コンピュータのハードウェア、表の作成 7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い 8. データサイエンス入門1: 表計算の基礎 9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式 10. データサイエンス入門3: 関数 11. データサイエンス入門4: 基本統計 12. データサイエンス入門5: データ集計と可視化 13. まとめ</p> <p>[成績評価方法] タイピング(10%)、課題(70%)、最終レポート(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題やレポートは、添削して返却します。また、必要に応じて個別に問題点を指摘し、改善を求めます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] khori@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	情報A
担当者	堀 桂太郎
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【教養1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 課題、最終レポート</p> <p>【教養3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: タイピング、課題、最終レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>30時間アカデミックOffice2021 著者名: 杉本くみ子 大澤栄子 出版社: 実教出版 (978-4-407-35943-5)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>必要に応じて適宜指示します。</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	情報A		
担当者	清光 英成		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>授業を通して、次のことを目標とします。</p> <p>①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる</p> <p>②ワードを使って文書処理ができる</p> <p>③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる</p> <p>④インターネットを適切に利用できる</p> <p>[授業概要]</p> <p>高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身に付けることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけでなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身に付ける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習、課題への取り組みを行うこと(各回、合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得 2. インターネット、タッチタイピング 3. 電子メール、文書作成の基礎 4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷 5. 情報セキュリティ、文書の編集 6. コンピュータのハードウェア、表の作成 7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い 8. データサイエンス入門1: 表計算の基礎 9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式 10. データサイエンス入門3: 関数 11. データサイエンス入門4: 基本統計 12. データサイエンス入門5: データ集計と可視化 13. まとめ <p>[成績評価方法]</p> <p>課題やレポートは、添削して返却する。また、必要に応じて個別に問題点等を指摘し、改善を求める。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題やレポートは、添削して返却します。また、必要に応じて個別に問題点等を指摘し、改善を求めます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>kiyomitu@kobe-u.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	情報A
担当者	清光 英成
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【教養1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 各回の課題(100%)</p> <p>【教養3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法:</p> <p>[テキスト(ISBN)] 30時間アカデミックOffice2021 著者名: 杉本くみ子 大澤栄子 出版社: 実教出版 (9.78E+12)</p> <p>[参考文献(ISBN)] 必要に応じて適宜指示します。</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	情報A		
担当者	堀 桂太郎		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標] 授業を通して、次のことを目標とします。 ①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる ②ワードを使って文書処理ができる ③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる ④インターネットを適切に利用できる</p> <p>[授業概要] 高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身に付けることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけではなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身に付ける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。 この授業で身に付ける知識や技術は、パソコンを安全かつ、効果的に利用するための基礎となります。したがって、ここで身に付けたことは他のいろいろな授業での学習にも役に立ちます。各自でテキストを参考にしながら、特に復習や課題作成に積極的に取り組んでください。すでにパソコンを使っている人にとっても、基礎知識や技術が正しく理解できているかどうかを確認しながら学習を進めてください。基礎だからと言って学習がおろそかにならないよう、目的意識を明確にして粘り強く学習してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] タッチタイピングの練習 及び 各回の講義についての予習・復習、課題への取り組みを行ってください(各回、合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1.本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得 2.インターネット、タッチタイピング 3.電子メール、文書作成の基礎 4.情報モラル、ページ設定と文書の印刷 5.情報セキュリティ、文書の編集 6.コンピュータのハードウェア、表の作成 7.コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い 8.データサイエンス入門1:表計算の基礎 9.データサイエンス入門2:表計算の参照方法 10.データサイエンス入門3:関数 11.データサイエンス入門4:基本統計 12.データサイエンス入門5:データ集計と可視化 13.まとめ</p> <p>[成績評価方法] タイピング(10%)、課題(70%)、最終レポート(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題やレポートは、添削して返却します。また、必要に応じて個別に問題点等を指摘し、改善を求めます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] khori@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	情報A
担当者	堀 桂太郎
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【教養1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 課題、最終レポート</p> <p>【教養3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: タイピング、課題、最終レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)]</p> <p>30時間アカデミックOffice2021 著者名: 杉本くみ子 大澤栄子 出版社: 実教出版 (978-4-407-35943-5)</p> <p>[参考文献(ISBN)]</p> <p>必要に応じて適宜指示します。</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	情報B		
担当者	堀 桂太郎		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>授業を通して、次のことを目標とする。</p> <p>①AI・データサイエンスの必要性を説明できる ②社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる ③データの活用方法について説明できる ④データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる</p> <p>[授業概要]</p> <p>AI・データサイエンスに関して興味・関心を持ち、AI時代に身に付けておくべき素養(新たな読み書きそろばん)を修得し、日常や仕事の場で使いこなせるようになることが大切である。本授業は、広い様々な視点からAI・データサイエンスに関して基礎的な知識を修得し、日常の生活や仕事で使いこなせるようになる内容を扱う。学修方法は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定のe-Learning教材を活用し、全てオンライン上で学修する ・各回の動画コンテンツを全て視聴し、途中でメモを取り、分からない用語を調べながら学修する ・各回ごとに用意されている確認テストを指定の期限までに提出し、第13回以降に最終レポートを提出する <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>指定のe-Learning教材の学修及び 前回の講義の復習(1時間程度) 各回の動画コンテンツの視聴率を授業の出欠として反映する。視聴率100%を出席、70%までを遅刻、70%未満を欠席として扱う。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義のガイダンス、データサイエンスとは 2. 社会で起きている変化 3. 社会で活用されているデータ 4. データ・AIの活用領域 5. データ・AI利活用のための技術 6. データ活用とは 7. データ・AI利活用の現場 8. データ・AI利活用の最新動向 9. データを読む 10. データを説明する 11. データを扱う 12. データ・AIを扱う上での留意事項 13. データを守る上での留意事項とまとめ <p>[成績評価方法]</p> <p>確認テスト(70%)、最終レポート(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>確認テストで示される採点結果を踏まえ、動画と資料を再度見直すこと。質問等があれば担当教員が対応する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>khori@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	情報B
担当者	堀 桂太郎
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【教養2-1】自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 成績評価方法: 課題、最終レポート</p> <p>【教養3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 課題、最終レポート</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	食事学 (女性のためのかしこい食事学)
担当者	竹内 美貴、西 奈保
[アクティブラーニング授業]	
PBL(課題解決型)	反転授業
ディスカッション・ディベート	グループワーク
プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
その他	
<p>[到達目標]</p> <p>①「食べる」ということの根本的な意味が理解できる。 ②日常の食事作りや食材の購入、外食時に、授業で学んだ知識を実践できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>思春期の女性にはしばしば痩せに憧れ、間違ったダイエット等を実行している人を見受けます。誤ったダイエットは貧血や摂食障害をまねく可能性が高く、さらに将来、妊娠や出産の時、母子共にいろいろな危険を及ぼす可能性も考えられます。そこで、まず、栄養や食事についての基礎を学び、理想的な食事がどのようなものかを理解し、正しい食生活が実行できるように考察します。ダイエットの方法を学ぶ内容ではありません。 またこの時期から適正な体重を維持し、バランスのとれた食事を心がけることは、将来、生活習慣病の発症の予防になります。生活習慣病を理解し、予防する食べ方を学びます。 積極的な受講を望みます。 受講人数は40名までとします。多い場合は抽選により決定します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>担当教員から課題が出されることもあります。授業内容を復習し、図書館等で授業内容に関連した必要な情報を調べるなど事後学習も行ってください。毎回、授業内で提出物があります。復習をしておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の説明 ダイエットの落とし穴(西) 2. 若い女性に必要な栄養素(西) 3. 簡単レシピの紹介 ①主菜(西) 4. 簡単レシピの紹介 ②副菜(西) 5. 中食・外食を利用するときのポイント(西) 6. 食事をより楽しむために(西) 7. 体に入った食物は体の中でどうなるのか・課題説明(竹内) 8. 体に入った食物の栄養について(竹内) 9. 毎日食べている食材の産地を知る(竹内) 10. 日本人の食生活の現状と理想の食生活について(竹内) 11. 何をどのくらい食べればよいのか(竹内) 12. かしこく食べましょう(竹内) 13. 野菜を長持ちさせる方法・貯蔵方法・加工方法について、課題提出(竹内) <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(40%)、提出物(60%)で評価します。 2名の担当者の評価を平均して最終の評価とします。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポート等の提出物を点検し、解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(竹内 美貴)mozawa@kwjc.kobe-wu.ac.jp (西 奈保)nnishioka@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p> <p>質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項などを記載してください。</p>	

授業科目名 (副題)	食事学 (女性のためのかしこい食事学)
担当者	竹内 美貴、西 奈保
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【教養2-1】自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度(40%)、提出物(60%)で評価します。・ 2名の担当者の評価を平均して最終の評価とします。</p> <p>【教養2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度(40%)、提出物(60%)で評価します。・ 2名の担当者の評価を平均して最終の評価とします。</p> <p>[テキスト(ISBN)] プリント配布</p> <p>[参考文献(ISBN)] プリント配布</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	食品科学	(元気で健康な生活を送るために)	
担当者	平田 庸子、中村 智英子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①食生活と健康について、幅広い知識を身に付けることができる。 ②日常生活において、食品の正しい情報を理解し選択することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>この授業では、多様な食品の中から賢く食品の表示を読み取り選択する方法や、栄養と健康について幅広く学び、豊かな健康な生活を送るために役立つ事柄を学びます。 日ごろから栄養や食品に関することに興味を持って色々な情報を得ておいて下さい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・食品の選び方Ⅰ(食品表示の見方)(平田) 2. 食品の選び方Ⅱ(食品保存)(平田) 3. 食品の選び方Ⅲ(魚介類と肉類)(平田) 4. 食品の成分と健康Ⅰ(食品の色と栄養機能性成分)(平田) 5. 食品の成分と健康Ⅱ(サプリメント)(平田) 6. 乳酸菌と酵素について(平田) 7. 新甘味料について(平田) 8. 発酵食品について(中村) 9. 食中毒(中村) 10. 調理時の衛生管理(中村) 11. 食品汚染物質(中村) 12. 食品添加物(中村) 13. 食品の遺伝子組み換え(中村) <p>* 順序は変更になる場合があります。</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>課題レポート(80%)、受講態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートは、毎回の授業内で解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>研究室A920(平田) yo-hirata@kwjc.kobe-wu.ac.jp 研究室A704(中村)nakamura@kwjc.kobe-wu.ac.jp メール送信の際は、学科名、氏名、授業名、用件を記載してください。</p>			

授業科目名 (副題)	食品科学 (元気で健康な生活を送るために)
担当者	平田 庸子、中村 智英子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。 成績評価方法: レポート 受講態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 資料プリント</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	心理学 I		
担当者	佐伯 恵里奈、前田 研史、曾山 いづみ、池尻 義隆		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標] 心理学の知見や考え方をを用いて、人間の心理と行動について説明することができる。</p> <p>[授業概要] 心理学とは、人の行動や心の働きについて研究する学問分野です。この授業では科学としての心理学を幅広く学び、心理学の各領域の基礎的な知識を身に付けることを通じて、人の行動と心について理解と考えを深めることをねらいとします。心理学の各領域をそれぞれ専門とする複数の教員によるオムニバス形式の授業をおこない、複数の側面から人の心と行動をとらえ、理解する態度を身に付けます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の授業で学習したことを復習し、自分自身の体験や日常生活上で経験することがらと関連づけつつ理解を深めるよう努めること。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学とは(佐伯 恵里奈) 2. 知覚(佐伯 恵里奈) 3. 記憶(佐伯 恵里奈) 4. 学習(前田 研史) 5. 言語(前田 研史) 6. 社会(前田 研史) 7. 臨床(曾山 いづみ) 8. 発達(曾山 いづみ) 9. 家族関係(曾山 いづみ) 10. 脳の病気(池尻 義隆) 11. こころの病気(池尻 義隆) 12. こころと脳の関係(池尻 義隆) 13. まとめ(佐伯 恵里奈) <p>[成績評価方法] 授業時に出席する課題(リアクションペーパー、グループディスカッション等)(40%)、試験(60%)を総合的に判断して評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の課題は、授業内やmanaba上でフィードバックします。 ・試験については、答案回収後、解答の解説を行い、質問を受け付けます。 <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 佐伯 恵里奈 e-saeki@suma.kobe-wu.ac.jp 前田 研史 maeta@suma.kobe-wu.ac.jp 曾山 いづみ i-soyama@suma.kobe-wu.ac.jp 池尻 義隆 y-ikejiri@suma.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	心理学 I
担当者	佐伯 恵里奈、前田 研史、曾山 いづみ、池尻 義隆
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 授業時に出題する課題、試験</p> <p>[テキスト(ISBN)] プリント配布等</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし。授業内で随時紹介する。</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	数学 I		
担当者	梅田 亨		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①数学的活動を通して創造性の基礎を培うとともに、数学的思考力を高めるなかで数学の楽しさを体感することができる。</p> <p>②いろいろな計算をとおして、数学的な事実を予測し、可能であればその予測に厳密な証明を与えることで数学で使われる重要な技法を学ぶ。</p> <p>[授業概要]</p> <p>小学校の算数や中学以降の数学で学んだ事柄と、数学にまつわる歴史や文化の話題も取り扱い、あらためて日常的な事象と数学の関わりを学び、数学的思考や論理的思考力を培います。積極的に授業に参加してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>講義内容の復習(練習問題を解く、用語・定義の確認など)は積極的に行ってください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2^nの表を見て考える。そこにどのような法則が見つけられるか。 2. 自然数、N進法 3. 数を広げる(ゼロ、負の数、整数、有理数)、指数法則とその拡張 4. 整数の合同、割り算の意味 5. 二項定理、パスカルの三角形 6. 周期性の解明 7. 周期性とフェルマの小定理 8. フェルマの小定理の拡張 9. ここまでのまとめ 10. 対数と数の近似 11. 大体の世界 12. 対数からみえる、さまざまな現象、音階、放射能、小数の由来 13. 一般二項定理とその応用、近似計算 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業中に行う演習への取り組み(30%)、理解度確認テスト(70%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>演習後、解説をし理解を深める。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>umeda.tooru.5x@kyoto-u.jp</p>			

授業科目名 (副題)	数学 I
担当者	梅田 亨
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【教養2-1】自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 成績評価方法: 関連する課題に対するレポートの提出</p> <p>【教養2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。 成績評価方法: 関連する課題に対するレポートの提出</p> <p>[テキスト(ISBN)] 適宜プリントを配布</p> <p>[参考文献(ISBN)] 適宜紹介</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	数学Ⅱ		
担当者	梅田 亨		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①データの適切な処理方法やデータの見方、また、データから導かれた情報を正確に読み、正しく理解することができる。</p> <p>②データを有効に活用するための手法を身に付け、数学的論拠に基づいて判断することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>まず、確実な知識を理解する方法(論理)を学びます。しかし、データが不十分であるなどの場合の判断のしかた(確率的考え)を通じて、不確実ではあるが、どれほどの確実さが得られるかの数値的な指標を得る方法を知りたい。その一方、論理的には確実であっても、計算が膨大で、決定的なところまで至ることができない世界もあります。我々の知識の階層を、数学の立場から知ることによって、現実の世界をどのように把握していくか。現在は AI の進歩によって、かなりのことができるようになってきているが、信頼できるのか。できれば、そのようなところまで突っ込んでいきたい。可能であれば、演習等基礎的な考え方とその方法を学びます。積極的に授業に参加してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>講義内容の復習(練習問題を解く、用語・定義の確認など)は積極的に行ってください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理について 2. 論理(続き) 3. 集合 4. 順列と組合せ 5. 確率と順列組合せ 6. 確率の意味 7. 偏差値の意味 8. 期待値1 9. 期待値2 10. パスカルの三角形 11. 二項分布 12. 正規分布 13. 検定(統計的判断) <p>[成績評価方法]</p> <p>授業中に行う演習への取り組み(30%)、理解度確認テスト(70%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>演習後、解説をし理解を深める。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>umeda.tooru.5x@kyoto-u.jp</p>			

授業科目名 (副題)	数学Ⅱ
担当者	梅田 亨
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【教養2-1】自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 成績評価方法: 関連する課題に対するレポートの提出</p> <p>【教養2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。 成績評価方法: 関連する課題に対するレポートの提出</p> <p>[テキスト(ISBN)] 適宜プリントを配付</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『数学ガールの秘密ノート／確率の冒険』 著者名: 結城 浩著 出版社: SBクリエイティブ (978-4815606039) 高等学校の確率・統計 著者名: 黒田隆郎ほか 出版社: ちくま学芸文庫 (978-4-480-09393-6)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	造形美術 (コンピュータで絵を描こう)
担当者	尼子 実沙
[アクティブラーニング授業]	
PBL(課題解決型)	反転授業
ディスカッション・ディベート	○ グループワーク
プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
その他	
<p>[到達目標]</p> <p>①自分の思い描いているイメージをコンピュータ上で具現化できるようになる。 ②表現の目的を考え、伝える相手により伝わりやすい表現ができるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>コンピュータを使って絵を描き、オリジナル絵本やコミュニケーションツールを制作します。主に商業デザインに関わるグラフィックデザイナーの経験を有する教員が制作を通して、デザインの基本と2種のグラフィックアプリケーション(Adobe Photoshop・Adobe Illustrator)の基本操作を指導します。 絵を描いたり、何かを表現することが苦手又は嫌いという人も、やり直しが簡単にできるコンピュータを使って、少しずつ仕上げていくことができます。また、絵を描くことは好きだけど、コンピュータは苦手という人も、文字入力や表計算などの一般的なコンピュータの使い方ではないペイントソフトから入門することで、コンピュータを楽しく学ぶことができます。 同時にデザインに必要な知識や技術も学ぶことができるので、自分が伝えたいイメージを、伝える相手にわかりやすく表現できる力もつけていくことができます。 毎回授業の最初にその日の重要な事項や新しい機能を説明しますので、できるだけ遅刻はしないよう出席してください。指導方法の関係で上限15名とします。(多数の場合はくじ引き)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>その日の課題が授業内に完成しない場合は、次の授業までに各自制作を進めてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1. オリエンテーション 2種類のアプリケーション(Adobe Photoshop・Adobe Illustrator)の概要説明 使用機材の基本的な使い方 / 絵本のラフ制作① 2. アドビ・フォトショップの実践 01_ アドビ・フォトショップの基本使用方法の説明 作画ツールの使い方 / 絵本のラフ制作② 3. アドビ・フォトショップの実践 02_ レイヤーの概念と使い方 / 絵本の素材制作① 4. アドビ・フォトショップの実践 03_ 選択ツールの使い方 / 絵本の素材制作② 5. アドビ・フォトショップの実践 04_ 色の仕組みと色調補正 / 絵本の素材制作③ 6. アドビ・イラストレーターの実践 01_ レイアウトの基本 / コミュニケーションツールの制作① 7. アドビ・イラストレーターの実践 02_ 画像の配置とトリミング / 絵本データの作成① 8. アドビ・イラストレーターの実践 03_ 文字、段落の理解とレイアウト / 絵本データの作成② 9. アドビ・イラストレーターの実践 04_ オブジェクトの制作 / 絵本データの作成③、完成 10. アドビ・イラストレーターの実践 05_ パターンの活用 / 絵本データの印刷、製本 11. 2種類のアプリケーションの実践 01_ コミュニケーションツールの制作② 12. 2種類のアプリケーションの実践 02_ コミュニケーションツールの制作③ 13. 制作物の内容とアプリケーションの理解度の確認</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>作品の完成度(70%)、授業態度(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>授業内で各作品に対する評価コメントをお伝えします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>contact@amakomisa.com</p>	

授業科目名 (副題)	造形美術 (コンピュータで絵を描こう)
担当者	尼子 実沙
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養2-1】自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 成績評価方法: アプリケーションの使い方を理解し、伝える相手により伝わりやすい表現方法を模索し、自分の表現したいイメージを具現化できているかを評価する。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 必要に応じてプリントを配布します。</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	造形美術 (コンピュータで絵を描こう)
担当者	尼子 実沙
[アクティブラーニング授業]	
PBL(課題解決型)	反転授業
ディスカッション・ディベート	○ グループワーク
プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
その他	
<p>[到達目標]</p> <p>①自分の思い描いているイメージをコンピュータ上で具現化できるようになる。 ②表現の目的を考え、伝える相手により伝わりやすい表現ができるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>コンピュータを使って絵を描き、オリジナル絵本やコミュニケーションツールを制作します。主に商業デザインに関わるグラフィックデザイナーの経験を有する教員が制作を通して、デザインの基本と2種のグラフィックアプリケーション(Adobe Photoshop・Adobe Illustrator)の基本操作を指導します。 絵を描いたり、何かを表現することが苦手又は嫌いという人も、やり直しが簡単にできるコンピュータを使って、少しずつ仕上げていくことができます。また、絵を描くことは好きだけど、コンピュータは苦手という人も、文字入力や表計算などの一般的なコンピュータの使い方ではないペイントソフトから入門することで、コンピュータを楽しく学ぶことができます。 同時にデザインに必要な知識や技術も学ぶことができるので、自分が伝えたいイメージを、伝える相手にわかりやすく表現できる力もつけていくことができます。 毎回授業の最初にその日の重要な事項や新しい機能を説明しますので、できるだけ遅刻はしないよう出席してください。指導方法の関係で上限15名とします。(多数の場合はくじ引き)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>その日の課題が授業内に完成しない場合は、次の授業までに各自制作を進めてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1. オリエンテーション 2種類のアプリケーション(Adobe Photoshop・Adobe Illustrator)の概要説明 使用機材の基本的な使い方 / 絵本のラフ制作① 2. アドビ・フォトショップの実践 01_ アドビ・フォトショップの基本使用方法の説明 作画ツールの使い方 / 絵本のラフ制作② 3. アドビ・フォトショップの実践 02_ レイヤーの概念と使い方 / 絵本の素材制作① 4. アドビ・フォトショップの実践 03_ 選択ツールの使い方 / 絵本の素材制作② 5. アドビ・フォトショップの実践 04_ 色の仕組みと色調補正 / 絵本の素材制作③ 6. アドビ・イラストレーターの実践 01_ レイアウトの基本 / コミュニケーションツールの制作① 7. アドビ・イラストレーターの実践 02_ 画像の配置とトリミング / 絵本データの作成① 8. アドビ・イラストレーターの実践 03_ 文字、段落の理解とレイアウト / 絵本データの作成② 9. アドビ・イラストレーターの実践 04_ オブジェクトの制作 / 絵本データの作成③、完成 10. アドビ・イラストレーターの実践 05_ パターンの活用 / 絵本データの印刷、製本 11. 2種類のアプリケーションの実践 01_ コミュニケーションツールの制作② 12. 2種類のアプリケーションの実践 02_ コミュニケーションツールの制作③ 13. 制作物の内容とアプリケーションの理解度の確認</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>作品の完成度(70%)、授業態度(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>授業内で各作品に対する評価コメントをお伝えします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>contact@amakomisa.com</p>	

授業科目名 (副題)	造形美術 (コンピュータで絵を描こう)
担当者	尼子 実沙
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養2-1】自らの専門領域を越え、問題解決を図ろうとする創造性を身に付けている。 成績評価方法: アプリケーションの使い方を理解し、伝える相手により伝わりやすい表現方法を模索し、自分の表現したいイメージを具現化できているかを評価する。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 必要に応じてプリントを配布します。</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	体育講義		
担当者	矢野 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①生涯にわたり継続的に運動を行うことの重要性を理解し、自らの生活の中に取り入れることができる。 ②これらの実践に伴う知識や態度を養うことができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>現代社会においては、健康・体力づくりの重要性が指摘されている。この授業では、生涯にわたって健康を維持・増進し、健康で文化的な人間らしい生活を営むための基礎的な事柄を中心に講義する。またグループワークにおいて、各自の価値観、気づき等についての振り返りを行う。 ・携帯電話の使用は認めません。 ・他学生の聴講に影響を与える私語は慎んでください。 ・積極的な態度で授業に参加し、自らの健康問題として取り組んでください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自らの運動経験やクラブ活動経験を事前に整理し、受講してください。授業後は、健康増進や体力の向上を目指し、自ら運動に取り組むようにしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 講義の概要について 健康の概念 2. 子どもの発育発達と運動 3. 高齢者の健康 高齢者の健康の現状 4. 体力と健康 からだと構造と機能について 5. 休養・こころと健康 睡眠、ストレスと健康の関係 6. 栄養と健康 栄養、食生活と健康の関係 7. 運動と健康 有酸素運動と無酸素運動 8. 生活習慣病 9. ストレッチング 効果と実践方法 10. 喫煙・アルコールと健康 11. 妊娠と出産 女性のからだ、避妊 12. スポーツ外傷と応急処置 13. 理解度確認テスト・解説 <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認テスト(30%)、レポート(20%)、授業態度(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解度確認テストは、回収後、解答の解説を行います。 ・レポートは、後日添削して返却します。 <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>myano@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に、学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	体育講義
担当者	矢野 真理
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。 成績評価方法: レポート、授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし 必要に応じて適宜プリントを配布する。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 健康づくりのための運動の科学 著者名: 鶴木 秀夫 編著 出版社: 化学同人 (978-4-7598-1710-2)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	体育講義		
担当者	矢野 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①生涯にわたり継続的に運動を行うことの重要性を理解し、自らの生活の中に取り入れることができる。 ②これらの実践に伴う知識や態度を養うことができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>現代社会においては、健康・体力づくりの重要性が指摘されている。この授業では、生涯にわたって健康を維持・増進し、健康で文化的な人間らしい生活を営むための基礎的な事柄を中心に講義する。またグループワークにおいて、各自の価値観、気づき等についての振り返りを行う。 ・携帯電話の使用は認めません。 ・他学生の聴講に影響を与える私語は慎んでください。 ・積極的な態度で授業に参加し、自らの健康問題として取り組んでください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自らの運動経験やクラブ活動経験を事前に整理し、受講してください。授業後は、健康増進や体力の向上を目指し、自ら運動に取り組むようにしてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 講義の概要について 健康の概念 2. 子どもの発育発達と運動 3. 高齢者の健康 高齢者の健康の現状 4. 体力と健康 からだと構造と機能について 5. 休養・こころと健康 睡眠、ストレスと健康の関係 6. 栄養と健康 栄養、食生活と健康の関係 7. 運動と健康 有酸素運動と無酸素運動 8. 生活習慣病 9. ストレッチング 効果と実践方法 10. 喫煙・アルコールと健康 11. 妊娠と出産 女性のからだ、避妊 12. スポーツ外傷と応急処置 13. 理解度確認テスト・解説 <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認テスト(30%)、レポート(20%)、授業態度(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解度確認テストは、回収後、解答の解説を行います。 ・レポートは、後日添削して返却します。 <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>myano@kwjc.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に、学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	体育講義
担当者	矢野 真理
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。 成績評価方法: レポート、授業態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし 必要に応じて適宜プリントを配布する。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 健康づくりのための運動の科学 著者名: 鶴木 秀夫 編著 出版社: 化学同人 (978-4-7598-1710-2)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	体育実技		
担当者	矢野 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①スポーツやレクリエーション実践を通して体力の維持向上ができるようになる。 ②生活の中に運動習慣をとり入れ実践できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>実技種目は、バドミントン、卓球、バレーボール、ダンス、体カトレーニング等のレクリエーションスポーツの何れかの種目を季節・実情に合わせて実習します。 ・スポーツウェア、スポーツシューズを着用し、アクセサリは外す、長い髪は束ねてください。 ・自他の健康・安全に留意するとともに、積極的な態度で取り組んでください。 ・貴重品や持ち物は各自で管理してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自分に必要な運動の質と量が確保できるよう、自己の健康と体力の現状を観察してください。 取り組むスポーツ種目については、ルールや試合の流れに興味をもち積極的に観戦を心がけてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業についてのガイダンス 体力測定 2. ネット型ゲームの実践 基本技術の習得 3. ネット型ゲームの実践 ルールの理解 4. ネット型ゲームの実践 ゲームの進め方 5. ネット型ゲームの実践 ゲームの攻防とフォーメーション 6. ネット型ゲームの実践 ゲームとチームワーク 7. ネット型ゲームの実践 実技テスト 8. ゴール型ゲームの実践 基本技術の習得 9. ゴール型ゲームの実践 ルールの理解 10. ゴール型ゲームの実践 ゲームの進め方 11. ゴール型ゲームの実践 ゲームの攻防とフォーメーション 12. ゴール型ゲームの実践 戦法とチームワーク 13. ゲームの理解度と技術上達度の確認 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(50%)、実技テスト(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>実技テスト終了後、ゲームルールの理解については必要に応じて再確認し、運動技術の向上については講評を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>myano@kwjic.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	体育実技
担当者	矢野 真理
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、実技テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 観るまえに読む大修館スポーツルール2023 著者名:大修館書店編集部 出版社:大修館書店 (978-4469269468)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	体育実技		
担当者	矢野 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①スポーツやレクリエーション実践を通して体力の維持向上ができるようになる。 ②生活の中に運動習慣をとり入れ実践できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>実技種目は、バドミントン、卓球、バレーボール、ダンス、体カトレーニング等のレクリエーションスポーツの何れかの種目を季節・実情に合わせて実習します。 ・スポーツウェア、スポーツシューズを着用し、アクセサリは外す、長い髪は束ねてください。 ・自他の健康・安全に留意するとともに、積極的な態度で取り組んでください。 ・貴重品や持ち物は各自で管理してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自分に必要な運動の質と量が確保できるよう、自己の健康と体力の現状を観察してください。 取り組むスポーツ種目については、ルールや試合の流れに興味をもち積極的に観戦を心がけてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業についてのガイダンス 体力測定 2. ネット型ゲームの実践 基本技術の習得 3. ネット型ゲームの実践 ルールの理解 4. ネット型ゲームの実践 ゲームの進め方 5. ネット型ゲームの実践 ゲームの攻防とフォーメーション 6. ネット型ゲームの実践 ゲームとチームワーク 7. ネット型ゲームの実践 実技テスト 8. ゴール型ゲームの実践 基本技術の習得 9. ゴール型ゲームの実践 ルールの理解 10. ゴール型ゲームの実践 ゲームの進め方 11. ゴール型ゲームの実践 ゲームの攻防とフォーメーション 12. ゴール型ゲームの実践 戦法とチームワーク 13. ゲームの理解度と技術上達度の確認 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(50%)、実技テスト(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>実技テスト終了後、ゲームルールの理解については必要に応じて再確認し、運動技術の向上については講評を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>myano@kwjic.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	体育実技
担当者	矢野 真理
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、実技テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 観るまえに読む大修館スポーツルール2023 著者名:大修館書店編集部 出版社:大修館書店 (978-4469269468)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	体育実技		
担当者	矢野 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①スポーツやレクリエーション実践を通して体力の維持向上ができるようになる。 ②生活の中に運動習慣をとり入れ実践できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>実技種目は、バドミントン、卓球、バレーボール、ダンス、体カトレーニング等のレクリエーションスポーツの何れかの種目を季節・実情に合わせて実習します。 ・スポーツウェア、スポーツシューズを着用し、アクセサリは外す、長い髪は束ねてください。 ・自他の健康・安全に留意するとともに、積極的な態度で取り組んでください。 ・貴重品や持ち物は各自で管理してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自分に必要な運動の質と量が確保できるよう、自己の健康と体力の現状を観察してください。 取り組むスポーツ種目については、ルールや試合の流れに興味をもち積極的に観戦を心がけてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業についてのガイダンス 体力測定 2. ネット型ゲームの実践 基本技術の習得 3. ネット型ゲームの実践 ルールの理解 4. ネット型ゲームの実践 ゲームの進め方 5. ネット型ゲームの実践 ゲームの攻防とフォーメーション 6. ネット型ゲームの実践 ゲームとチームワーク 7. ネット型ゲームの実践 実技テスト 8. ゴール型ゲームの実践 基本技術の習得 9. ゴール型ゲームの実践 ルールの理解 10. ゴール型ゲームの実践 ゲームの進め方 11. ゴール型ゲームの実践 ゲームの攻防とフォーメーション 12. ゴール型ゲームの実践 戦法とチームワーク 13. ゲームの理解度と技術上達度の確認 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度(50%)、実技テスト(50%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>実技テスト終了後、ゲームルールの理解については必要に応じて再確認し、運動技術の向上については講評を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>myano@kwjic.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	体育実技
担当者	矢野 真理
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養2-2】健全な社会を維持するため、健康に留意し、健全な精神を育成する態度を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、実技テスト</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] 観るまえに読む大修館スポーツルール2023 著者名:大修館書店編集部 出版社:大修館書店 (978-4469269468)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	地域コミュニティ入門	(~新しいつながりと仕組みで構築する地域コミュニティ~)	
担当者	飛田 敦子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①地域コミュニティの抱える現代的課題の理解 ②考える力の構築 ③コミュニケーション能力(話す力・聴く力・調整する力)の向上</p> <p>[授業概要]</p> <p>少子高齢化、人口減少、税収減、非正規雇用の増加、格差の拡大など、現代社会は様々な課題を抱えています。行政や企業だけでは、それらの課題すべてを解決するのは難しい時代となってきました。そこで注目されているのが、NPOや地域コミュニティといった地域に根差した機能です。高齢者、子ども、まちづくりなど、その分野は多岐にわたり、様々な事例が構築されています。また、それらの主体(地域コミュニティ、行政、企業など)がともに手を取り合って行動する「協働(きょうどう)」も、なくてはならない手法となってきました。</p> <p>特に、2020年から2023年にかけて、新型コロナウイルスの影響で、対面して多様な人間関係を構築するのが難しい時期が続きました。リアルな交流の機会が激減する中で、高齢者の認知および身体機能の低下、産後うつを抱える親の増加など、自粛や孤立による社会課題が浮き彫りとなりました。「感染症による命のリスク」と「孤立による命のリスク」のバランスに苦慮しながらも、少しでも現状を打破しようとする挑戦も各地で生まれ、実を結んでいます。地域コミュニティの役割を再考するためにも、これらコロナ禍における取組事例も授業内で多数紹介します。</p> <p>また、この授業では様々な分野で活躍する実践者の方にもゲストスピーカーとしてご登壇いただき、現場での様々なチャレンジに触れながら、地域コミュニティの実態や役割、またその可能性について共に考えたいと思います。 ※担当教員はNPOや地域コミュニティをフィールドにした仕事に長年従事しており、「実務経験のある教員」です。</p> <p>① 学生、講師、ゲストスピーカーが皆で一緒に創る授業です。90分授業の前半を講義、後半をグループディスカッションやゲストスピーカーとの質疑応答等の参加型形式で行います。講義を聞いたり、板書したりするだけでなく、他人と議論することに重点を置き、「人と学び、人から学ぶ」授業を目指します。そのため、受身ではなく積極的な参加態度を求めます。 ② ゲストスピーカーの関係で授業スケジュールや内容が変更する場合があります。</p> <p>参加型授業ですので、学生の積極的な参加がないと授業がなりたちません。ぜひ前向きな姿勢で出席してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ディスカッション課題は事前に発表します。授業時間外にも積極的に調べ、考え、学ぶ姿勢を奨励します。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> ガイダンス なぜ今、地域コミュニティなのか? 1 社会の変化 なぜ今、地域コミュニティなのか? 2 家族の変化 地域コミュニティの現場～事例紹介①障害者と地域コミュニティ～ 地域コミュニティの現場～事例紹介②中間支援と地域コミュニティ～ 地域コミュニティの現場～事例紹介③外国人と地域コミュニティ～ 地域コミュニティの現場～事例紹介④高齢者と地域コミュニティ～ 地域コミュニティの現場～事例紹介⑤地域組織と地域コミュニティ～ 前半の授業のふりかえりと中間レポートの作成 企業と地域コミュニティ 行政と地域コミュニティ 多様な主体による「協働」の可能性 グループワーク1～私たち大学生が地域コミュニティでできること～ グループワーク2～私たち大学生が地域コミュニティでできること～ 発表・まとめ <p>[成績評価方法] 授業ごとのコミュニケーションシート30%、中間レポート15%、グループワークで作成する企画書15%、期末試験40%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 原則、課題提出の翌週に抜粋してフィードバック</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] hida@cskobe.com</p>			

授業科目名 (副題)	地域コミュニティ入門 (~新しいつながりと仕組みで構築する地域コミュニティ~)
担当者	飛田 敦子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 授業ごとのコミュニケーションシート30%、中間レポート15%、グループワークで作成する企画書15%、期末試験40%</p> <p>[テキスト(ISBN)] 教科書なし。資料は都度パワーポイントのハンドアウトを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『人口減少社会のデザイン』 著者名: 広井良典 出版社: 東洋経済新報社 (4480065016) 『ソーシャルデザイン実践ガイド』 著者名: 寛裕介 出版社: 英治出版 (4862761496) 『つながるカフェ~コミュニティの〈場〉をつくる方法~』 著者名: 山納洋 出版社: 学芸出版社 (4761513616)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	地域連携インターンシップ I		
担当者	伊藤 智		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他	学外活動		
<p>[到達目標]</p> <p>①参加したプログラムの趣旨や参加者を理解し、その意義を第三者に説明できる。(知識・態度) ②地域連携に参画して、地域の問題点を挙げる事ができる。(知識) ③活動内容や目的、自身はどのように貢献できたかを、客観的に評価し、表現できる。(技能・態度) ④連携事業の多様なプログラムへの参画や自主活動を通して、新たに企画をたてる際の手順を学び、説明できる。(知識・技能)</p> <p>[授業概要]</p> <p>毎週定時に集合して行う座学ではなく、自主立案、実行、報告のインターンシップ科目です。将来、安全で楽しい社会を築くことのできる人材となるために、地域や社会の多様な情報の中から自分の個性に合った事項を選択し、参加し、その活動を客観的に捉え、次へのステップのためにフィードバックをする、というPDCAサイクルを習得します。この科目は、学外でのインターンシップを主とし、実践的教育から構成される授業科目です。</p> <p>平日頃から周囲に目を向け、不都合な点はないか、どうすればもっと良くなるか、自分にできることは何かなど、観察し考える習慣を付けてください。 活動ごとの記録作成を習慣付けてください。 普段からの連絡、相談や報告を怠らないようにしてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>初回(4月13日、神戸学院大学ポートアイランドキャンパス)のガイダンス後は、事前に計画した事業参加申告書に基づき、活動します。期末の活動報告会(7月13日を予定)で、全ての内容を報告し、討議します。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ポーアイ4大学連携事業への参加 3. 市民救命士講習の受講 4. 市民救命士講習救急インストラクター活動 5. ポーアイ・セーフティタウン・コミュニティ ボランティア活動 6. 減災SCOP活動 7. DMAT研修運営補助ボランティアへの参加 8. 「禁煙キャンパス地区」を目指した禁煙支援活動への参加 9. リレー・フォー・ライフ・ジャパン神戸への参加 10. KOBEエイズフェスタへの参加 11. 公開講座(大学や各地域で開催される講演会)の聴講 12. その他、大学関連事業として認定する事業への参加 13. 学生からの提案事業(事前相談を要します) 14. 活動報告会 15. まとめ <p>[成績評価方法]</p> <p>単位認定となる参加回数(チップ)の基本は10チップとします。 参加態度(50%)、事業貢献度(30%)、プレゼンテーション(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>活動報告会でのプレゼンテーションで、フロアとの間で質疑応答を行い、コメントをもらいます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>窓口: ポーアイ4大学連携推進センター 4u-renkei@j.kobegakuin.ac.jp 担当教員: (神戸学院大学) 伊藤 智 sitoh@nutr.kobegakuin.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	地域連携インターンシップ I
担当者	伊藤 智
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 【教養3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 単位認定となる参加回数 (チップ) の基本は10チップとします。・ 参加態度(50%)、事業貢献度(30%)、プレゼンテーション(20%) で評価します。</p> <p>[テキスト (ISBN)] なし</p> <p>[参考文献 (ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	地域連携インターンシップⅡ		
担当者	伊藤 智		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他	学外活動		
<p>[到達目標]</p> <p>①参加したプログラムの趣旨や参加者を理解し、その意義を第三者に説明できる。(知識・態度) ②地域連携に参画して、地域の問題点を挙げる事ができる。(知識) ③活動内容や目的、自身はどのように貢献できたかを、客観的に評価し、表現できる。(技能・態度) ④連携事業の多様なプログラムへの参画や自主活動を通して、新たに企画をたてる際の手順を学び、説明できる。(知識・技能)</p> <p>[授業概要]</p> <p>毎週定時に集合して行う座学ではなく、自主立案、実行、報告のインターンシップ科目です。将来、安全で楽しい社会を築くことのできる人材となるために、地域や社会の多様な情報の中から自分の個性に合った事項を選択し、参加し、その活動を客観的に捉え、次へのステップのためにフィードバックをする、というPDCAサイクルを習得します。この科目は、学外でのインターンシップを主とし、実践的教育から構成される授業科目です。</p> <p>平日頃から周囲に目を向け、不都合な点はないか、どうすればもっと良くなるか、自分にできることは何かなど、観察し考える習慣を付けてください。 活動ごとの記録作成を習慣付けてください。 普段からの連絡、相談や報告を怠らないようにしてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>初回(9月21日、神戸学院大学ポートアイランドキャンパス)のガイダンス後は、事前に計画した事業参加申告書に基づき、活動します。期末の活動報告会(1月11日を予定)で、全ての内容を報告し、討議します。</p> <p>[授業計画]</p> <p>□</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ポーアイ4大学連携事業への参加 3. 市民救命士講習の受講 4. 市民救命士講習救急インストラクター活動 5. ポーアイ・セーフティタウン・コミュニティ ボランティア活動 6. 減災SCOP活動 7. DMAT研修運営補助ボランティアへの参加 8. 「禁煙キャンパス地区」を目指した禁煙支援活動への参加 9. 神戸マラソン等、地域ボランティアへの参加 10. 公開講座(大学や各地域で開催される講演会)の聴講 11. 阪神淡路大震災関連メモリアル行事への参加 12. その他、大学関連事業として認定する事業への参加 13. 学生からの提案事業(事前相談を要します) 14. 活動報告会 15. まとめ <p>[成績評価方法]</p> <p>単位認定となる参加回数(チップ)の基本は10チップとします。 参加態度(50%)、事業貢献度(30%)、プレゼンテーション(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>活動報告会でのプレゼンテーションで、フロアとの間で質疑応答を行い、コメントをもらいます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>窓口: ポーアイ4大学連携推進センター 4u-renkei@j.kobegakuin.ac.jp 担当教員: (神戸学院大学) 伊藤 智 sitoh@nutr.kobegakuin.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	地域連携インターンシップⅡ
担当者	伊藤 智
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 【教養3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 単位認定となる参加回数(チップ)の基本は10チップとします。・参加態度(50%)、事業貢献度(30%)、プレゼンテーション(20%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	中国語 I		
担当者	沈 揚		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			

[到達目標]

- ①中国語の発音と声調のマスターができるようになる。
- ②日常生活中での挨拶言葉が話せるようになる。
- ③自己紹介ができるようになる。
- ④簡単な中国語の文章が理解できるようになる。

[授業概要]

授業中に中国のことを紹介しながら、挨拶言葉や中国語の発音を一通り学び、日常生活の話題で、中国語の文法や表現を学んでいき、練習問題や会話練習を繰り返しながら、中国語の基礎力を養成します。授業中に恥ずかしがらず、大きな声で発音練習をしてほしいです。言語学習は、姿勢ひとつで身に付き方が変わりますので、積極的な授業参加を心がけてください。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

授業後、必ず復習し、新出単語と本文に目を通して、練習問題をやってください。更に各回の講義についての予習・復習を行い、発音の練習に心掛け1時間程度してください。

[授業計画]

1. ガイダンス 中国のことを紹介する
2. 教科書 発音編(声調と母音、挨拶ことば)
3. 教科書 発音編(子音、挨拶ことば)
4. 教科書 第1課 自己紹介の言い方
5. 教科書 第2課 これは何ですか?
6. 教科書 第3課 これはいかがですか?
7. 発音、第1～3課の復習、練習問題の確認と解答
8. 小テスト
9. 教科書 第4課 買い物
10. 教科書 第5課 どこにありますか?
11. 第4～5課の復習、練習問題の確認と解答
12. 中国の文化を紹介
13. 自己紹介文を書く・前期学習した内容をまとめ

[成績評価方法]

出席・授業態度(30%)、提出物(50%)、小テスト(20%)で評価します。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

課題、小テストに対する解答、フィードバックは授業中に行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

shang65404717@gmail.com

授業科目名 (副題)	中国語 I
担当者	沈 揚
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法:出席・授業態度(30%)、提出物(50%)、小テスト(20%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 1年生の コミュニケーション中国語 著者名:劉穎 出版社:白水社 (06931-8)</p> <p>[参考文献(ISBN)] インターネット YouTubeで好きな中国映画・動画などを見たり、中国の歌を学んだりしてたら、早く上達します。</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	中国語Ⅱ		
担当者	沈 揚		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			

[到達目標]

- ①現代中国語で使われている簡体字や文法についての知識を深め、中文を理解できるようになる。
- ②将来独学ができるように基礎力を付ける。
- ③中国語検定4級程度の常用語彙を身に付けるようになる。

[授業概要]

「中国語Ⅰ」に引き続き、日常の身近な話題や生活習慣をテーマに、中国語の文法や表現を一つ一つ学んでいきます。
授業中に恥ずかしがらず、大きな声で発音練習をしてください。言語学習は、姿勢ひとつで身に付き方が変わりますので、積極的な授業参加を心がけてください。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

授業後、復習をし、新出単語と本文に目を通しながら、朗読練習をしてください。
各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間以上に)。

[授業計画]

1. 前期の復習
2. 教科書 第6課 何がありますか
3. 教科書 第7課 ホテルにチェックイン
4. 教科書 第8課 時間の言い方
5. 第6課～8課の復習、練習問題を確認
6. 小テスト・解答
7. 中国の文化を紹介・動画鑑賞
8. 教科書 第9課 タクシーに乗る
9. 教科書 第10課 買い物する
10. 教科書 第11課 交渉方法
11. 教科書 第12課 紛失届を出す
12. 第9課～12課の復習、練習問題を確認・解答
13. 総合練習問題・後期学習した内容をまとめ

[成績評価方法]

出席・授業態度(30%)、提出物(50%)、小テスト(20%)で評価します。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

課題については、毎回授業で解答を行います。
小テストのフィードバックは次回の授業で行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

shang65404717@gmail.com

授業科目名 (副題)	中国語Ⅱ
担当者	沈 揚
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法:出席・授業態度(30%)、提出物(50%)、小テスト(20%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 1年生 コミュニケーション中国語 著者名:劉穎 出版社:白水社 (06931-8)</p> <p>[参考文献(ISBN)] インターネット YouTubeの好きな中国映画・動画</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	日本国憲法		
担当者	七野 敏光		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標] 憲法の原理を正しく理解し民主主義政治の主人公として振る舞えるようになる。</p> <p>[授業概要] 日本国憲法はわが国の法体系の頂点に位置する根本法であり、国政の基本を定めた法典です。少し平たく言えば、日本という国家がどのような政治を行うかを国民に宣言し、約束したものが日本国憲法です。そこで、約束の一方の当事者である国家には、約束内容に従って政治を行うことが要求されるとともに、約束の他方の当事者である国民一人ひとりにもまた、その約束内容を十分に承知し、約束内容が遵守されているか、どうかを不断に吟味することが要求されます。この授業では、日本国憲法の規定内容(例えば、国民主権や基本的人権など)をできるだけ分かりやすく解説し、民主主義国家の国民に相応しい知識を学びます。 憲法は小難しいという先入観を捨てて授業に参加してください。毎回の授業を楽しむことが一番の学習方法です。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] インターネットなどを駆使して、ある程度リアルな社会情報を把握したうえで授業に参加してください。また、授業で学んだ話題を思い返しつつ日々の生活を送るように心がけてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1.憲法の定義 2.法律と命令 3.権力を拘束する法 4.大日本帝国憲法 5.日本国憲法 6.基本的人権の概念 7.自由権と社会権 8.個人の尊重 9.法の下での平等 10.身体の自由 11.思想・良心の自由 12.表現の自由 13.憲法のもつ意義の再確認</p> <p>[成績評価方法] レポート(20%)と小テスト(80%)で成績を評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テスト実施後、解答を提示し説明します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] shichino@suma.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	日本国憲法
担当者	七野 敏光
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: レポート(20%)と小テスト(80%)で成績を評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 『新時代の法学・憲法』 著者名: 山田勉・笹田哲男編 出版社: 建帛社 (ISBN 978-4-7679-4346-6)</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『現代の法学』 著者名: 野口寛他 出版社: 建帛社 (978-4767943442)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	日本国憲法		
担当者	七野 敏光		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標] 憲法の原理を正しく理解し民主主義政治の主人公として振る舞えるようになる。</p> <p>[授業概要] 日本国憲法はわが国の法体系の頂点に位置する根本法であり、国政の基本を定めた法典です。少し平たく言えば、日本という国家がどのような政治を行うかを国民に宣言し、約束したものが日本国憲法です。そこで、約束の一方の当事者である国家には、約束内容に従って政治を行うことが要求されるとともに、約束の他方の当事者である国民一人ひとりにもまた、その約束内容を十分に承知し、約束内容が遵守されているか、どうかを不断に吟味することが要求されます。この授業では、日本国憲法の規定内容(例えば、国民主権や基本的人権など)をできるだけ分かりやすく解説し、民主主義国家の国民に相応しい知識を学びます。 憲法は小難しいという先入観を捨てて授業に参加してください。毎回の授業を楽しむことが一番の学習方法です。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] インターネットなどを駆使して、ある程度リアルな社会情報を把握したうえで授業に参加してください。また、授業で学んだ話題を思い返しつつ日々の生活を送るように心がけてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.憲法の定義 2.法律と命令 3.権力を拘束する法 4.大日本帝国憲法 5.日本国憲法 6.基本的人権の概念 7.自由権と社会権 8.個人の尊重 9.法の下での平等 10.身体の自由 11.思想・良心の自由 12.表現の自由 13憲法のもつ意義の再確認 <p>[成績評価方法] レポート(20%)と小テスト(80%)で成績を評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テスト実施後、解答を提示し説明します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] shichino@suma.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	日本国憲法
担当者	七野 敏光
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: レポート(20%)と小テスト(80%)で成績を評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] 『新時代の法学・憲法』 著者名: 山田勉・笹田哲男編 出版社: 建帛社 (ISBN 978-4-7679-4346-6)</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『現代の法学』 著者名: 野口寛他 出版社: 建帛社 (978-4767943442)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	日本語入門 (生き生き日本語)
担当者	長田 あかね
[アクティブラーニング授業]	
PBL(課題解決型)	反転授業
ディスカッション・ディベート	グループワーク
プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
その他	小テスト、小レポート、ミニツッパーパーの提出と授業でのフィードバック
<p>[到達目標]</p> <p>①ふだん使っている日本語の基礎的な知識を身に付け、日本語の特徴を正しく理解できるようになる。 ②日本の文化や日本人の持つ感性が、日本語に与えた影響について理解し、その魅力を説明できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>私たちが日頃から使っている日本語は、いったいどのような言語なのでしょう。ふだん何気なく話している言葉も、それが現在の形になるまでにさまざまな変遷を辿ってきました。日本の歴史、文化、風土が作り上げてきた日本の言葉は、いろいろな顔を持っています。この授業では、私たちが日常的に使用している日本語をもっと理解するために、日本語に関するさまざまな事柄をテーマごとに学んでいきます。 受講生は、まずは関西ならではの言葉、若者に流行している言葉、聞き慣れない言葉など、身のまわりにあるいろいろな日本語に関心を持ってみてください。 なお、単位は授業の内容を理解してはじめて与えられるものです。授業をよく聞き、わからないことは積極的に質問してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業内に前回の授業内容に関する小テストを行うので、必ず復習しておいてください。 また、授業内容に関する小レポートの課題を出すので、参考文献を調べるなどして、授業時間外に仕上げておいてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.日本語の基礎知識 2.日本語の文字1—漢字 3.日本語の文字2—平仮名、片仮名 4.いろは歌と50音図 5.日本の言葉1—漢語 6.日本の言葉2—和語、外来語(カタカナ語) 7.日本語の音 8.日本語のオノマトペ 9.日本語の文体 10.日本語の敬語1—尊敬語、謙譲語 11.日本語の敬語2—丁寧語、さまざまな実例 12.日本の方言 13.日本語の特徴と文化的背景に関する復習と理解度の確認 <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認テスト(50%)、小テストと小レポート(40%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>小テストと小レポートは、後日添削して返却します。返却にあわせて解説も行います。 理解度確認テストは、解答をmanabaで公開します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>a-nagata@yg.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>	

授業科目名 (副題)	日本語入門 (生き生き日本語)
担当者	長田 あかね
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: 理解度確認テスト、小テスト、小レポート、ミニツツペーパー</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし。毎回レジュメを配布。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『日本の漢字』 著者名: 笹原宏之 出版社: 岩波書店 (9.7840043099e+12) 『カタカナ・外来語/略語辞典』 著者名: 堀内克明 出版社: 自由国民社 (9.784426113e+12) 『日本語オノマトペ辞典: 擬音語・擬態語4500』 著者名: 小野正弘 出版社: 小学館 (9.7840950417e+12) 『広辞苑』(第7版) 著者名: 新村出 出版社: 岩波書店 (9784000801324)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	日本の生活文化 (伝えたい食と生活)
担当者	細見 和子
[アクティブラーニング授業]	
PBL(課題解決型)	反転授業
ディスカッション・ディベート	グループワーク
プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
その他	
<p>[到達目標]</p> <p>①様々な日本の生活文化について学び、日本人が昔から伝え育んできた日本の心を見直して見ることができる。 ②将来の日常生活に活かすことができるような日本の生活文化の知識を習得することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>四季の伝統行事、日本の食文化、日本料理や和菓子の文化、お箸の使い方など食生活マナー、きものの文化とTPO、慶事や弔事のマナーなど、日本人が昔から伝承してきた文化やマナーについて習得します。 積極的な授業の参加を望みます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日本の生活文化について興味を持ち、関係する資料を収集し、さらに知識を深めてください。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本の生活文化の概要と授業の目的 日本料理の特徴 日本の伝統料理について 外国から見た日本 日本の伝統行事Ⅰ お正月や節句など年中行事について 日本の伝統行事Ⅱ 七五三や還暦など人生のお祝いごとについて 和菓子の文化 和菓子の世界 箸の文化 箸の文化は日本だけ? きものの文化 日本独特の衣装について 慶事の文化とマナー 結婚式の招待状の返事・ご祝儀袋の書き方、服装など 弔事の文化とマナー 葬儀の意味、お悔やみのことば、焼香の仕方など 日常生活の中のマナーと常識Ⅰ 挨拶やお辞儀、敬語の使い方など 日常生活の中のマナーと常識Ⅱ 手紙やはがきの書き方など 日本の生活文化やマナーについての復習 講義の順序を変更することがあります。 <p>[成績評価方法]</p> <p>レポート(30%)、理解度確認テスト(70%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>提出物は、後日添削して返却します。 理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>khosomi@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p>	

授業科目名 (副題)	日本の生活文化 (伝えたい食と生活)
担当者	細見 和子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: レポート(30%)、理解度確認テスト(70%)</p> <p>[テキスト(ISBN)] 適宜プリント等を配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 随時、紹介します。</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	日本の伝統文化 (茶の湯に見る日本の美)
担当者	辻田 美和
[アクティブラーニング授業]	
PBL(課題解決型)	反転授業
ディスカッション・ディベート	グループワーク
プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
その他	茶室にて茶会体験に取り組みます
<p>[到達目標] 学ぶ、鑑賞する、体験するなど、さまざまな角度から「茶の湯」の世界を探求し、日本の美をみつめることができる。</p> <p>[授業概要] 茶の湯の世界には、茶碗などの陶芸作品、棗などの漆作品、きものなどの染織作品、茶杓や茶筌などの竹・木工作品、釜などの彫金作品、床の間に掛けられる書や絵画などの絵画作品、茶室などの建築作品、露地や庭などの環境空間作品、生け花やお香の美、懐石や和菓子の美というように、さまざまな日本の美がちりばめられています。またこれらを、季節や状況に応じて取り合わせる美的な感覚も含め、総合的な芸術の世界が展開されます。点前や作法の知識を深めるだけではなく、さまざまな美術作品、美的空間、美的感覚と出会い、日本の美をみつめます。授業では視聴覚教材やワークシートを通して学び、茶室にて簡単な茶会ワークショップ体験や茶道具の鑑賞活動に取り組みます。 また、茶室利用のため、受講人数制限を30名までとします。茶室利用時には、各自白ソックスを持参してください。くわしくは授業にて説明します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日常生活の中で、日本の美とは何かを観察し、茶の湯以外の日本の伝統文化にも関心を持って授業内容を復習してください。各回の講義についての予習・復習に取り組んでください。(各回、予習・復習合わせて1時間程度)</p> <p>[授業計画] 1.日本の伝統的芸術文化 2.茶のたどった道 3.茶のすがたともてなしの心・「静聴松風」から 4.茶のすがたともてなしの心・茶の湯を楽しむ①薄茶 5.茶のすがたともてなしの心・茶の湯を楽しむ②濃茶 6.日常と茶の湯 日日は好日 7.総合芸術としての茶の湯と現代の茶会 8.茶会体験ワークショップ①客の体験 9.美しい着物 10.懐石と菓子 11.茶道具の鑑賞 12.茶会体験ワークショップ②薄茶 13.生活の中の「日本の美」</p> <p>[成績評価方法] 各授業の提出物(ワークシート)(80%)、受講態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 全てのワークシートは返却し、振り返りを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] mtsujita@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p>	

授業科目名 (副題)	日本の伝統文化 (茶の湯に見る日本の美)
担当者	辻田 美和
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: ワークシートとワークショップ受講態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] 使用しません。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『茶の湯 ころと美』 著者名: 表千家監修 不審庵文庫編 出版社: 河原書店 (978-4-7611-0167-1)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	日本の伝統文化 (茶の湯に見る日本の美)
担当者	辻田 美和
[アクティブラーニング授業]	
PBL(課題解決型)	反転授業
ディスカッション・ディベート	グループワーク
プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
その他	茶室にて茶会体験に取り組みます
<p>[到達目標] 学ぶ、鑑賞する、体験するなど、さまざまな角度から「茶の湯」の世界を探求し、日本の美をみつめることができる。</p> <p>[授業概要] 茶の湯の世界には、茶碗などの陶芸作品、棗などの漆作品、きものなどの染織作品、茶杓や茶筌などの竹・木工作品、釜などの彫金作品、床の間に掛けられる書や絵画などの絵画作品、茶室などの建築作品、露地や庭などの環境空間作品、生け花やお香の美、懐石や和菓子の美というように、さまざまな日本の美がちりばめられています。またこれらを、季節や状況に応じて取り合わせる美的な感覚も含め、総合的な芸術の世界が展開されます。点前や作法の知識を深めるだけではなく、さまざまな美術作品、美的空間、美的感覚と出会い、日本の美をみつめます。授業では視聴覚教材やワークシートを通して学び、茶室にて簡単な茶会ワークショップ体験や茶道具の鑑賞活動に取り組みます。 また、茶室利用のため、受講人数制限を30名までとします。茶室利用時には、各自白ソックスを持参してください。くわしくは授業にて説明します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日常生活の中で、日本の美とは何かを観察し、茶の湯以外の日本の伝統文化にも関心を持って授業内容を復習してください。各回の講義についての予習・復習に取り組んでください。(各回、予習・復習合わせて1時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.日本の伝統的芸術文化 2.茶のたどった道 3.茶のすがたともてなしの心・「静聴松風」から 4.茶のすがたともてなしの心・茶の湯を楽しむ①薄茶 5.茶のすがたともてなしの心・茶の湯を楽しむ②濃茶 6.日常と茶の湯 日日は好日 7.総合芸術としての茶の湯と現代の茶会 8.茶会体験ワークショップ①客の体験 9.美しい着物 10.懐石と菓子 11.茶道具の鑑賞 12.茶会体験ワークショップ②薄茶 13.生活の中の「日本の美」 <p>[成績評価方法] 各授業の提出物(ワークシート)(80%)、受講態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 全てのワークシートは返却し、振り返りを行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] mtsujita@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p>	

授業科目名 (副題)	日本の伝統文化 (茶の湯に見る日本の美)
担当者	辻田 美和
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: ワークシートとワークショップ受講態度</p> <p>[テキスト(ISBN)] 使用しません。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『茶の湯 ころと美』 著者名: 表千家監修 不審庵文庫編 出版社: 河原書店 (978-4-7611-0167-1)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	日本文学	(古典の世界を楽しむ—恋愛に見る女性の生き方)
担当者	長田 あかね	
[アクティブラーニング授業]		
PBL(課題解決型)		反転授業
ディスカッション・ディベート		グループワーク
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク
その他	小テスト、小レポート、ミニツッパーパーの提出と授業でのフィードバック	
<p>[到達目標]</p> <p>①授業で取り上げた古典文学や古典芸能の作品の魅力を知り、深く理解・鑑賞できるようになる。 ②日本の古典文学や古典芸能の作品が後世へ与えた文化的影響について見聞を広め、その価値を理解できるようになる。 ③日本古典文学史に関する基礎的な知識を身に付け、概要を説明できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>日本の古典文学や古典芸能には、さまざまな恋愛模様が描かれています。そこに描かれるいろいろな愛の形は、現代を生きる私たちにも通じるばかりです。この授業では、そうした古典作品の中から『源氏物語』と関連作品を中心に取り上げ、原文と現代語訳を織り交ぜながら読んでいきます。作品の理解を深めるため、DVDや絵画資料などを使って、なるべくビジュアルに授業を展開します。合わせて、日本の古典文学の歴史と伝統についての基礎的な知識も学んでいきます。文学鑑賞に力点を置くので、古文が苦手な学生でも十分に理解できる授業です。受講生は、ふだんから日本の古典文学に関係する事柄に敏感になってください。少し注意すると、身のまわりにたくさん存在することに気づきます。なお、単位は授業の内容を理解してはじめて与えられるものです。授業をよく聞き、わからないことは積極的に質問してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業内で前回の授業内容に関する小テストを行うので、必ず復習しておいてください。また、授業内容に関する小レポートの課題を出しますので、図書館で参考図書を調べるなどして、授業時間外に仕上げておいてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.日本文学史の流れを知るⅠ(中古) 2.『源氏物語』の成立と紫式部について知る 3.『源氏物語』のあらすじと登場人物について知る 4.『源氏物語』第9帖「葵」の読解 5.『源氏物語』第10帖「賢木」の読解 6.『源氏物語』第9帖「葵」と第10帖「賢木」の和歌の鑑賞 7.『源氏物語』の文化的影響について知る 8.日本文学史の流れを知るⅡ(中世・近世) 9.能・狂言について知る 10.能「葵上」の読解 11.能「葵上」の鑑賞 12.狂言「川上」の解説と鑑賞 13.日本古典文学の歴史と文化的影響に関する復習と理解度の確認 <p>[成績評価方法]</p> <p>理解度確認テスト(50%)、小テストと小レポート(40%)、授業態度(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>小テストと小レポートは、後日添削して返却します。返却にあわせて解説も行います。理解度確認テストは、解答をmanabaで公開します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>a-nagata@yg.kobe-wu.ac.jp 質問等がある場合は、メール本文に、学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>		

授業科目名 (副題)	日本文学 (古典の世界を楽しむ—恋愛に見る女性の生き方)
担当者	長田 あかね
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養1-1】自らの専門領域を越え、人生社会を牽引するための知識・技術を身に付けている。 成績評価方法: 理解度確認テスト、小テスト、小レポート、ミニツツペーパー</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし。毎回レジュメを配布。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 『日本古典文学大辞典』全6巻 著者名: 日本古典文学大辞典編集委員会 出版社: 岩波書店 (9784000800617ほか) 『源氏物語』全6巻(『新編日本古典文学全集』20-25) 著者名: 阿部秋生ほか 出版社: 小学館 (4096580201ほか) 『謡曲集』全2巻(『新編日本古典文学全集』58-59) 著者名: 小山弘志ほか 出版社: 小学館 (4096580589ほか) 『初めての能・狂言』著者名: 三浦裕子ほか 出版社: 小学館 (4093431132)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	人間関係づくりワークショップ		
担当者	稲田 靖子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①コミュニケーションの理論やスキルを学び、身につけることができる。 ②相手の気持ちを受容し、共感することを味わい、自身や他者への気づきを深めることができる。 ③人前での発表や初対面の相手への不安や緊張をコントロールし、自信を持って自己表現できる力を習得する。 ④これまでの自身のコミュニケーションスタイルを見直し、新しい行動様式を身につけることができる。 ⑤他者とのかわりやつながりを通して、気づきを得ることができる。 ⑥これからの人間関係づくりを肯定的にとらえ、豊かな生活を送ることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>この授業は、4大学という異なった文化的背景を持つ受講生が、グループで様々なワークに取り組み、受講生同士が感じた事や気づいた事を交流し合う、体験を通じた学びを重視する。 ワークショップ形式の授業を通じ、グループ内の刻々と変化する人間関係の中で他者の気持ちを受容、共感し、自己理解や他者理解への気づきを深め、自己のコミュニケーションスタイルを見直し、新しい行動様式を身につけることを目標とする。 この科目は神戸学院大学DP②思考力・判断力・表現力等の能力とDP③主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度と関係し、それを育成する。</p> <p>臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、NPO法人、児童養護施設、教育相談機関、病院などで実務経験のある教員が、自己理解や他者理解への気づきを促し、自身のコミュニケーションの幅を広げ、より豊かな生活を送るためのコツを共に考え、体験を通して学びます。</p> <p>体験を重視する授業であるため、主体的な参加を望みます。 状況により日程、授業内容を変更する場合があります。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業で得た知識や体験を、日常の対人関係の中で、意識化し身につけてください。 授業の内容を整理して、理解が不十分であると感じた事項は、教員に質問してください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション ・授業の考え方、ねらい、進め方、評価について ・ワークショップ参画の約束事 ・出会いの試み 自分らしさの再発見 ・ワークショップとは ・自己紹介を極める(1) 自分自身の良さを知る ・コミュニケーションの定義 ・自己紹介を極める(2) 良い会話の秘訣 ・「聞く」から「聴く」へ ・積極的傾聴、傾聴のコツ 他者紹介 ・ジョハリの窓 ・相手へのインタビュー 自己理解を深める ・自己分析を体験する ・私の人生曲線 コミュニケーションと認知 ・考え方の癖を知り、考え方を広げる アンガーマネジメント ・感情のコントロール さわやかな自己表現 ・アサーション ・コミュニケーションと顔 グループワーク(1) ・集団意思決定を体験する グループワーク(2) ・グループ活動における役割を体験する グループワーク(3) ・グループ活動における役割を体験する 自分をデザインする ・自分と向き合い、表現する ・コラージュ制作 自分を語る ・自分について語る ・メンバーからのフィードバック ・マインドマップ制作 まとめ ・全体の分かち合い ・これまでの振り返り <p>[成績評価方法]</p> <p>授業に取り組む姿勢を評価70% (授業に積極的な参加40%、発表30%) 課題レポート30%、などを総合的に評価する</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>授業中に意見交換や発表、課題レポートの提出などをしてもらい、学生に対しては、コメントすることによってフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>inada@css.kobegakuin.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	人間関係づくりワークショップ
担当者	稲田 靖子
<p>【この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)】 【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法:1.授業に取り組む姿勢70%(・授業参画態度40% ・課題、発表他30%) ・ 2.課題レポート30%</p> <p>[テキスト (ISBN)] なし</p> <p>[参考文献 (ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	フランス語 I		
担当者	廣岡 江梨子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①正しく発音できるようになる。 ②文の仕組みを理解できるようになる。 ③挨拶や自己紹介を言えるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>フランス語の発音と文法の基礎を学ぶとともに、フランスの文化にも触れます。 フランス語習得の第一歩である発音は慣れが必要なので、毎回少しずつ規則を覚えながら繰り返し読むことにより、無理なく定着させていきます。文法としては、名詞や形容詞の扱い方、動詞の活用などを学び、フランス語の基本的な仕組みをしっかりと理解していきます。また、実際にフランス人と話す時に使えるフレーズを覚えて、簡単な会話ができるようにします。基礎を身に付けることが目的なので授業はゆっくり進めますが、みなさんの理解度に応じて応用にも挑戦できるようにします。 言葉の背景にある文化を知ってもらうため、フランスの食べ物やファッション、映画、本などを紹介し、フランスでの生活についても折に触れて話していきたいと思えます。</p> <p>語学の上達には、授業への積極的な参加と日々の積み重ねが大切です。楽しく有意義な時間となるよう授業に集中し、学んだことをひとつずつ定着させていってください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>重要な事項については覚えるように指示しますので、それを中心に各自復習しておいてください。練習問題を宿題にすることもあります。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アルファベット、あいさつ、自己紹介／フランスの基礎知識(1)国土、地名 2. 主語人称代名詞(私は、君は、彼は…)／発音の基本／フランスの基礎知識(2)文化、社会 3. 動詞etre(～です)／国籍や職業の言い方 4. 名詞の性と数、不定冠詞、定冠詞／「ここに～があります」「これは～です」 5. 形容詞の性と数、形容詞と名詞の組み合わせ 6. 動詞avoir(～を持っている)／家族の言い方 7. 第一群規則動詞：-er動詞／「話す」、「住む」、「好き」… 8. 否定文の作り方、指示形容詞(この、その…)、疑問文の作り方、応答の仕方 9. 動詞aller(行く)とvenir(来る)、前置詞と定冠詞の縮約、命令文 10. 所有形容詞(私の、君の、彼の…) 11. 強勢形人称代名詞、疑問形容詞(どの～)、数詞／年齢や好きなものの聞き方、答え方 12. いろいろな動詞を使った文を読む、書く 13. 学習した内容「アルファベット、あいさつ、自己紹介／フランスの基礎知識(1)国土、地名、主語人称代名詞(私は、君は、彼は…)／発音の基本／フランスの基礎知識(2)文化、社会、動詞etre(～です)／国籍や職業の言い方、名詞の性と数、不定冠詞、定冠詞／「ここに～があります」「これは～です」、形容詞の性と数、形容詞と名詞の組み合わせ、動詞avoir(～を持っている)／家族の言い方、第一群規則動詞：-er動詞／「話す」、「住む」、「好き」…、否定文の作り方、指示形容詞(この、その…)、疑問文の作り方、応答の仕方、動詞aller(行く)とvenir(来る)、前置詞と定冠詞の縮約、命令文、所有形容詞(私の、君の、彼の…)、強勢形人称代名詞、疑問形容詞(どの～)、数詞／年齢や好きなものの聞き方、答え方、いろいろな動詞を使った文を読む、書く」の復習と理解度確認テスト <p>[成績評価方法]</p> <p>授業態度50%、期末課題50%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>口頭の小テストはその場で結果を伝え、正解するまで何度でも挑戦できるようにします。記述の課題は結果とともにヒントを書き込んで返却し、それをもとに質問を受け付けます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>e-takegaki@suma.kobe-wu.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	フランス語 I
担当者	廣岡 江梨子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: グループワークとプレゼンテーション</p> <p>[テキスト(ISBN)] ピエールとユゴー[三訂版] 著者名:小笠原 洋子 出版社:白水社 (9.7845600613e+12)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	フランス語Ⅱ		
担当者	廣岡 江梨子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			

[到達目標]

よく使われる文や表現が理解でき、現地での買い物など簡単なやり取りができるようになる。

[授業概要]

前期に引き続き、フランス語の発音と基礎文法を学び、フランスについての知識を身に付けます。発音については、繰り返し読む練習をして無理なく定着させていきます。文法としては、いろいろな動詞の活用に加え、目的語人称代名詞などを学び、初級文法を完成させます。また、実際にフランス人と話す時に使えるフレーズを覚えて、簡単な会話ができるようにします。基礎を身に付けることが目的なので授業はゆっくり進めますが、みなさんの理解度に応じて応用にも挑戦できるようにします。

言葉の背景にある文化を知ってもらうため、フランスの食べ物やファッション、映画、本などを紹介し、フランスでの生活についても折に触れて話していきたいと思えます。

語学の上達には、授業への積極的な参加と日々の積み重ねが大切です。楽しく有意義な時間となるよう授業に集中し、学んだことをひとつずつ定着させていってください。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。重要な事項については覚えるように指示しますので、それを中心に各自復習しておいてください。練習問題を宿題にすることもあります。

[授業計画]

1. フランス語Iの復習(1)名詞、形容詞
2. フランス語Iの復習(2)動詞
3. 部分冠詞、第2群規則動詞: -ir動詞
4. 動詞vouloir(～したい)とpouvoir(～できる)
5. 非人称構文/時刻の聞き方、答え方
6. 直接目的語人称代名詞(私を、君を、彼を…)
7. 間接目的語人称代名詞(私に、君に、彼に…)
8. 代名動詞 / いろいろな動詞の活用
9. 近接未来(～しようとしている)、近接過去(～したばかりだ) / 注文の仕方
10. 中性代名詞、比較級と最上級
11. 時制 / 会話の練習
12. 読解の練習
13. 学習した内容「フランス語Iの復習(1)名詞、形容詞、フランス語Iの復習(2)動詞、部分冠詞、第2群規則動詞: -ir動詞、動詞vouloir(～したい)とpouvoir(～できる)、非人称構文/時刻の聞き方、答え方、直接目的語人称代名詞(私を、君を、彼を…)、間接目的語人称代名詞(私に、君に、彼に…)、代名動詞 / いろいろな動詞の活用、近接未来(～しようとしている)、近接過去(～したばかりだ) / 注文の仕方、中性代名詞、比較級と最上級、時制 / 会話の練習、読解の練習」の復習と理解度の確認

[成績評価方法]

授業態度50%、期末課題50%

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

試験後、答え合わせと解説を行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

e-takegaki@suma.kobe-wu.ac.jp

授業科目名 (副題)	フランス語Ⅱ
担当者	廣岡 江梨子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-2】多様化が進む社会において、多様な対話力を身に付けている。 成績評価方法: グループワークとプレゼンテーション</p> <p>[テキスト(ISBN)] ピエールとユゴー[三訂版] 著者名: 小笠原 洋子 出版社: 白水社 (9.7845600613e+12)</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	防災・防犯指導論実習	(身近な犯罪・火災と自然災害から 自分自身を守る)	
担当者	松下 眞		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標] 身近な犯罪被害からの防止対策の習得、自然災害の原因や結果を自分で考える基礎知識を身につける。</p> <p>[授業概要] 防災・防犯に関わる専門家による講話と実習、及び自然災害の事象を様々な切り口からメディアが編集・映像化した記録等を教材として、見て・知り・考えることにより疑似体験的に防災・防犯を学びます。阪神・淡路大震災などの対応経験を有する教員が、さまざまな災害の特徴を踏まえて対処法を指導します。</p> <p>阪神・淡路大震災の災害対策実務を踏まえて市民に理解してほしいリスクを伝える</p> <p>日頃から災害・犯罪等に関連するニュースや社会事象への注意と関心を払い、履修内容と合わせて自分自身を守る行動を実践してほしい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 災害・犯罪等に関連するニュースや社会事象への注意と関心を払い、履修授業の復習と疑問点の探求をおこないます。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 防災・防犯指導論実習 概論(松下) 2. 地域の防災・防犯活動(松下・学外特別講師) 3. 警察の役割と防犯対策(松下・学外特別講師) 4. 消防署の役割と火災防止(松下・学外特別講師) 5. 巨大地震(松下) 6. 巨大津波(松下) 7. 地震と火山(松下) 8. 最近の豪雨災害と線状降水帯(松下) 9. 局地豪雨と堤防決壊(松下) 10. 深層崩壊による土砂災害(松下) 11. 住宅耐震(松下・学外特別講師) 12. 長周期地震動(松下) 13. 感染症の歴史(コレラ、ペスト、スペイン風邪)(松下) 14. 複合災害(松下) 15. 南海トラフ地震(松下) <p>[成績評価方法] 授業中に作成するレポート(100%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート内容にはコメントを付けて返却し、次回以降に反映できるようにします。 多くの人に共通する作成上の問題を指摘し、レポート作成の改善を図ります。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] makoto29@ge.kobegakuin.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	防災・防犯指導論実習	(身近な犯罪・火災と自然災害から 自分自身を守る)
担当者	松下 眞	
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>【教養3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 授業中に作成するレポート(100%)で評価します。</p> <p>[テキスト (ISBN)] レジメ・資料を作成し配布する。</p> <p>[参考文献 (ISBN)] なし</p>		

授業科目名 (サブタイトル(副題))	防災・防犯入門		
担当者	船木 伸江		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標] 防犯や防災についての見識を備え、いざという時に行動できる</p> <p>[授業概要] 21世紀の課題の1つは安全で安心な社会の構築にあります。阪神・淡路大震災や東日本大震災で学んだ教訓は、日常的な取り組みと助け合いの精神の大切さです。この教訓は安全で安心な暮らしを守る防災と防犯対策にとっても重要なキーワードです。自分と愛する人を守るためには何が必要なのかについて、自分のこととして考えます。市民救命士の資格の取得や生活安全確保のための防犯対策など、各界の人々のお話を含めた授業展開をしていきます。</p> <p>この授業の担当者は、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターの資料室で実務経験のある教員であり、警察を含めた実務者を講師に招くオムニバス形式の実践的授業である。</p> <p>本科目の履修に当たっては、神戸学院大学の開講判断はもちろん、神戸女子大学・神戸女子短期大学(以下、本学)の他大学キャンパスへの本学学生派遣に対する判断も加味されることから、履修中にコロナ感染症拡大となった際には、神戸学院大学が開講可能と判断しても、本学独自の判断により、状況によっては履修中止措置を取ることがあることを申し添えます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 新聞等をよく読むなど最低2時間以上予習復習する。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 15回の講義の進め方、成績評価の仕方などを説明する 2. 防災入門① 1995年に神戸で発生した阪神・淡路大震災を事例に災害の被害と防災のあり方について学ぶ 3. 防災入門② 2011年に東北で発生した東日本大震災を事例に災害の被害と防災のあり方について学ぶ 4. 防災入門③ 災害に備えるためには日ごろからどのようなことをしておけばいいのか、備えのあり方について学ぶ 5. 防災ワークショップ 防災教育教材を用いて災害の被害を追体験しながら、防災についてワークショップ形式で学ぶ 6. 神戸地方気象台 気象と災害(学外特別講師) 7. 市民救命士講習Ⅰ 家族が倒れたり、町を歩いていて誰かが倒れていた際の応急手当の知識を学びます。正式な神戸市の市民救命士講習です。 8. 市民救命士講習Ⅱ 実際に倒れた人を救うために、胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの取扱方法などの的確な応急処置法を学びます(この講習を修了することで神戸市消防局の修了証を取得できます)。(学外特別講師) 9. 兵庫県神戸水上警察署 身近に迫る犯罪の防止(学外特別講師) 10. 兵庫県警本部 被害者支援の現状、取り組み(学外特別講師) 11. 兵庫県神戸水上警察署 交通安全教育の参画(学外特別講師) 12. 消費者教育 消費者犯罪について(学外特別講師) 13. 災害と被災者① 災害にあうということは、その後の生活にどのような影響を与えるのか、実際の被災者の声から学ぶ 14. 災害と被災者② 災害にあうということは、その後の生活にどのような影響を与えるのか、実際の被災者の声から学ぶ(阪神・淡路大震災の直接経験者から話を聞きます)(学外特別講師) 15. 防災・防犯知識の活用 これまでの講義で学んだ防災・防犯の事例を生活に活かす方法を学ぶ</p> <p>[成績評価方法] 授業態度・授業への積極的貢献度(40%)、レポート(60%、提出3回)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 講義の感想やレポートについては最終授業でフィードバックを行い、より深い思考につなげる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] funaki@css.kobegakuin.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	防災・防犯入門
担当者	船木 伸江
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 【教養3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度・授業への積極的貢献度 (40%)、レポート (60%、提出3回)</p> <p>[テキスト (ISBN)] なし</p> <p>[参考文献 (ISBN)] 随時紹介する</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	防災・防犯ワークショップ		
担当者	室崎 友輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>防災・防犯について自分の言葉で説明することができる。(知識) 日頃から防災・防犯に関するニュース等に関心を持つ。(態度・習慣) 防災・防犯における危機管理能力を身につける。(技能)</p> <p>[授業概要]</p> <p>生活を支える安全・安心は平素の備えが重要です。多発する災害事象は複雑多様化し顕在化しています。また、犯罪など身近な社会生活の安全をおびやかすリスクも凶悪化し多様化しています。この授業では現代社会に求められている安全・安心についての視野を広げ、防災・防犯のリーダーとなり得る人材の育成を目指します。</p> <p>NPOおよび企業で、社会教育・防災普及啓発業務および防災コンサルティング業務の実務経験のある教員が、講演・ワークショップの豊富な実務経験を活かし、より実践的で分かりやすい解説と、学修者が主体となって関わり学べる指導をおこないます。</p> <p>また、防災・防犯にかかわっている指導者や専門家の講話も取り入れ、幅広い授業展開をおこないます。</p> <p>ワークショップでは、お互いの意見を尊重し合い、協力しあう姿勢をもって望んでください</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃から防災・防犯に関するニュース等に関心を持つこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと防災ゲーム(なまずの学校)体験 2. 護身術(実技)(学部特別講師:警察) 3. 交通安全講話(学部特別講師:警察) 4. ワークショップ(防災Ⅰ)ダイレクトロード(災害協力シミュレーション) 5. 生活安全講話(学部特別講師:警察) 6. 気象と災害(学部特別講師:気象台) 7. ハザードマップ・避難について考えるゲームの体験 8. ワークショップ(防災Ⅱ)ーさすけなぶる(避難所シミュレーション) 9. 災害時の口腔ケア 10. ワークショップ(防災Ⅲ)ークロスロード(災害対応時のジレンマ) 11. 火災と防火、土砂災害VR体験(学部特別講師:消防) 12. 携帯被害・サイバー被害対策(学部特別講師:警察) 13. 防災・防犯の啓発Ⅰー防災ゲームの体験(シャッフル、たすカルテット) 14. 防災・防犯の啓発Ⅱー防災アニメの視聴(ORANGE、おたすけ犬ポチ) 15. ワークショップ(防災Ⅳ)ー防災工作体験 <p>[成績評価方法]</p> <p>授業貢献度(25%)と、毎回の授業テーマ関連課題の小レポートによる授業理解度(75%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>小レポート回収後、授業内で解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>yusuke.murosaki@gmail.com</p>			

授業科目名 (副題)	防災・防犯ワークショップ
担当者	室崎 友輔
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 授業貢献度(25%)と、毎回の授業テーマ関連課題の小レポートによる授業理解度(75%)で評価 します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	ボランティアの実践	(新しい自分を発見するために)	
担当者	古田 貴美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標] ボランティア活動への責任感と、社会での実践的なコミュニケーション力を身に付けることができる。</p> <p>[授業概要] ボランティア活動は、見返りを求めず、自ら進んで社会と関わり、社会の発展や他者の助けを行う活動です。大学とは異なる様々な場で活動することによって、様々な人やことと関わり、組織や様々な活動の仕方を実践的に学びます。本授業は、30時間のボランティア活動と5時間の授業を加えた通年授業で、ボランティアのあり方について深く学びます。対象となるボランティア活動は、学校から紹介されるもの、クラブ活動の中で行われるもの、地域連携推進委員会が募集するもの、居住地域での活動等のいずれでもいいですが、授業担当者の認定したものに限り、自分が関わってみたいボランティア活動を通して、これからの社会を支える協働のあり方を具体的に学びます。他者とのさまざまな関係は、多くの深い思考をもたらします。いろいろなボランティア活動に積極的に参加し、助ける、助けられるといった単純な図式にとらわれず、どんな場面からも学べる力を身に付けてください。相手の立場に立つてものを考えられる力を身に付けることは一生の財産です。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ボランティア活動の前には、自分が参加する行事やイベントの内容に加えて、活動の目的、意味を確認してください。活動後には自らの行動を振り返り、報告書を提出してください。</p> <p>[授業計画] (学内授業)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、ボランティア活動の理念、ボランティア活動関係機関について 2. ボランティアの募集について、コミュニケーション及び活動時のマナー、報告の仕方について 3. ボランティア活動の中間報告 夏休み中のボランティアについての諸注意 4. ボランティア活動の振り返り、ボランティア活動の事後ディスカッション、レポートの作成 5. ボランティア活動の報告会 <p>その他、個別にボランティア活動時間の確認、報告などの指導</p> <p>[成績評価方法] 各活動での事前準備、報告書(10%)、ボランティア活動時間30時間分(60%)、5コマ分の授業で指示される提出物やレポート(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートに対する講評を返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 古田 kfuruta@kwjc.kobe-wu.ac.jp メール本文に学科・学籍番号・氏名・授業名と質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	ボランティアの実践 (新しい自分を発見するために)
担当者	古田 貴美子
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 【教養3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 報告書、レポート</p> <p>[テキスト (ISBN)] なし</p> <p>[参考文献 (ISBN)] 『いちばんはじめのボランティア』 著者名: 小野常明他編著 出版社: 樹村房 (88367-109-7)</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	ボランティアの実践 (新しい自分を発見するために)
担当者	竹内 美貴
[アクティブラーニング授業]	
PBL(課題解決型)	反転授業
ディスカッション・ディベート	グループワーク
プレゼンテーション	実習、フィールドワーク
その他	○

[到達目標]

- ①ボランティア活動に必要なとされる責任感を身に付けることができる。
- ②社会で必要とされるコミュニケーション力を実践的に身に付けることができる。

[授業概要]

1年間の通年授業です。1年間で30時間以上のボランティア活動を実施することで、1単位を取得できます。対象となるボランティア活動は、学校から紹介されるもの、クラブ活動の中で行われるもの、地域連携推進委員会が募集するもの、居住地域での活動等のいずれでもよろしいですが、授業担当者の認定したものに限りま。そうした様々なボランティア活動を行うことで、その意義と価値について学びます。
他者のためより自分の勉強のためということを忘れず、謙虚さを失わずに取り組む姿勢が大切です。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

ボランティア活動の前に準備をしてください。自分が手伝う行事やイベントの主催者、目的や参加者等を調べ、当日の自分の役割を知り、心構えをしてください。活動後は、行動を振り返り、報告書を提出してください。

[授業計画]

- 1.オリエンテーション(ボランティア活動の理念)
- 2.今後のボランティア活動について 5月の活動の募集、事前指導
3. 6月のボランティア活動の募集、事前指導
4. 7月のボランティア活動の募集、事前指導、及び5月の活動の事後指導
5. 8月、9月のボランティア活動の募集、事前指導、及び6月の活動の事後指導
6. 後期のボランティア活動について 募集と事前指導、及び7月8月の活動の事後指導
7. 11月のボランティア活動の募集、事前指導、及び10月の活動の事後指導
8. 12月のボランティア活動の募集、事前指導、及び11月の活動の事後指導
9. 1月以降のボランティア活動の募集、事前指導、及び12月の活動の事後指導
10. ボランティア活動の振り返り、レポートの作成

[成績評価方法]

各活動での事前準備、報告書(30%)、ボランティア活動時間(60%)、5コマ分の授業で指示される提出物やレポート(10%)で評価します。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

ボランティアに行くごとに提出された報告書は、「ボランティアの実践まとめ」と共に、後日添削して返却します。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

mozawa@kwjc.kobe-wu.ac.jp

質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し。質問事項等を記入してください

授業科目名 (副題)	ボランティアの実践 (新しい自分を発見するために)
担当者	竹内 美貴
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【教養3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 各活動での事前準備、報告書(30%)、ボランティア活動時間(60%)、5コマ分の授業で指示される提出物やレポート(10%)で評価します。</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	ボランティアの実践	(新しい自分を発見するために)	
担当者	松岡 恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
<p>[到達目標] ボランティア活動への責任感と、社会での実践的なコミュニケーション力を身に付けることができる。</p> <p>[授業概要] 対象となるボランティア活動は、学校から紹介されるもの、クラブ活動の中で行われるもの、地域連携推進委員会が募集するもの、居住地域での活動等のいずれでもよろしいですが、授業担当者の認定したものに限りません。 1年間の通年授業です。1年間で30時間以上のボランティア活動を実施することにより、1単位を取得できます。自分自身の学びのためということを忘れず、謙虚さをもってボランティア活動に望んでください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ボランティア活動の前には、十分に準備をしてください。自分が手伝う行事やイベントの主催者、目的や参加者等を調べて当日の自分の役割を知り、心構えをしてください。活動後には、自らの行動を振り返り、報告書を提出してください。</p> <p>[授業計画] (学内授業) 1.オリエンテーション、ボランティア活動の理念、ボランティア活動関係機関について 2.ボランティアの募集について、コミュニケーションおよび活動時のマナー、報告の仕方について 3.ボランティア活動の中間報告、夏休み中のボランティアについての諸注意 4.ボランティア活動の振り返り、ボランティア活動の事後ディスカッション、レポートの作成 5 ボランティア活動の報告会</p> <p>その他、個別にボランティア活動時間の確認、報告などの指導</p> <p>[成績評価方法] 各活動での事前準備、ボランティア活動報告書(10%)、30時間以上のボランティア活動時間分(60%)、レポート(30%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ボランティアに参加する都度に「参加報告書」の作成をして、ボランティア時間を記入しておく。それらの時間の合計が30時間以上になるまで「報告書」を積み上げます。 最終課題は、短大生活におけるボランティアへの取り組みのまとめを提出します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] m-matsuoka@kwjic.kobe-wu.ac.jp 質問などがある場合には、メール本文に、学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項などを記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	ボランティアの实践	(新しい自分を発見するために)
担当者	松岡 恵	
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>【教養3-1】主体的に社会参画を果たそうとする自立心を身に付けている。 成績評価方法: 提出物・レポート</p> <p>[テキスト (ISBN)] 特になし</p> <p>[参考文献 (ISBN)] なし</p>		